日本語 MailWorks for OpenVMS
インストレーション・ガイド

AA–PM6WC–TE

1995 年 7 月

本書では，日本語 MailWorks for OpenVMS ソフトウェアをインストールする方法について説明します。

オペレーティング・システム: 日本語 OpenVMS VAX V5.5-2 以降
日本語 OpenVMS AXP V6.1

ソフトウェア・バージョン: 日本語 MailWorks for OpenVMS V1.3A

日本ディジタル イクイップメント株式会社

1995 年 7 月

本書の著作権は日本ディジタル イクイップメント株式会社 (日本 DEC) が保有しており，本書中の解説および図，表は日本 DEC の文書による許可なしに，その全体または一部を，いかなる場合にも再版あるいは複製することを禁じます。

また，本書に記載されている事項は，予告なく変更されることがありますので，あらかじめご承知おきください。万一，本書の記述に誤りがあった場合でも，日本 DEC は一切その責任を負いかねます。

本書で解説するソフトウェア (対象ソフトウェア) は，所定のライセンス契約が締結された場合に限り，その使用あるいは複製が許可されます。

日本 DEC は，日本 DEC または日本 DEC の指定する会社から納入された機器以外の機器で対象ソフトウェアを使用した場合，その性能あるいは信頼性について一切責任を負いかねます。

© Digital Equipment Corporation Japan 1995.

All Rights Reserved.
Printed in Japan.

以下は他社の商標です。

CEO は米国 Data General 社の登録商標です。
DisplayWrite, IBM および PROFS は米国 International Business Machines 社の登録商標です。
Intel は米国 Intel 社の商標です。
KEYpak は米国 Keyword Office Technologies 社の商標です。
Lotus および 1-2-3 は米国 Lotus Development 社の商標です。
Macintosh および AppleTalk は米国 Apple Computer 社の登録商標です。
Microsoft およびMS–DOSは米国 Microsoft 社の登録商標です。
Windows は米国 Microsoft 社の商標です。
MultiMate は米国 Borland International 社の登録商標です。
MultiNet は米国 TGV 社の登録商標です。
PostScript は米国 Adobe Systems 社の登録商標です。
Samna Word II および Samna Word III は Samna 社の登録商標です。
UNIX は X/Open カンパニーリミテッドが独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。
WordPerfect は米国 Novell 社の商標です。
WordStar は MicroPro International 社の登録商標です。

目次

まえがき v

1 インストレーションの準備

1.1 必須ソフトウェアおよびオプション・ソフトウェア 1–1

1.2 必要なハードウェア 1–3

1.3 日本語 MailWorks V1.3A AXP に特有の制限事項 1–3

1.4 OpenVMS ライセンス管理機能 1–3
1.4.1 サーバのパーソナル・ユース・ライセンスのインストレーション 1–5

1.5 日本語 MailWorks をはじめてインストールするときの準備 1–5

1.6 インストレーション・プロシージャの条件 1–7
1.6.1 時間 1–7
1.6.2 特権 1–8
1.6.3 BYTLM および ENQLM クォータ 1–8
1.6.4 ディスク領域 1–8
1.6.4.1 GBLPAGES および GBLSECTIONS の値の計算 1–9
1.6.4.2 システム・パラメータ値を AUTOGEN で変更する 1–9
1.6.5 VMSINSTAL の必要条件 1–10
1.6.6 システム・ディスクのバックアップ 1–10

1.7 日本語 MailWorks for OpenVMS と Message Router 1–10
1.7.1 リモート Message Router の情報収集 1–11
1.7.2 リモート Message Router の初めてのインストレーション 1–12
1.7.3 現在インストールされている日本語 MailWorks の変更 1–13
1.7.4 Message Router メールボックスの作成 1–14
1.7.5 Message Router イメージのローカル・ノードへの複写 1–15
1.7.6 リモート Message Router 構成のスタートアップ・スクリプトを変更する 1–15

2 日本語 MailWorks のインストレーション

2.1 インストレーション前のオンライン・リリース・ノートへのアクセス 2–1
2.1.1 インストレーション検証プロシージャ (IVP) の実行 2–2
2.1.2 インストレーションの強制終了 2–4

2.2 インストレーション・プロシージャ 2–4
2.2.1 VMSINSTAL の起動 2–4
2.2.2 インストレーションの問い合わせと選択 2–5
2.2.3 情報メッセージ 2–14
2.2.4 インストレーション検証プロシージャからの出力 2–16
2.2.5 インストレーション・プロシージャの終了 2–17

2.3 エラーの回復 2–17

3　インストレーション終了後の作業

3.1　システム・スタートアップの編集 3–1
3.2　ユーザ・アカウント条件の設定 3–1
3.3　ファイル名の変更 3–3
3.4　ファイルの変更 3–3
3.5　サーバの追加 3–4
3.6　ディレクトリ・サービス・アドレスへのアクセス 3–4
3.7　システム設定の変更 3–4
3.7.1　設定情報に関する用語集 3–5
3.8　日本語 MailWorks for OpenVMS と TS の設定 3–6
3.8.1　日本語 MailWorks for OpenVMS(TS なし) の設定 3–6
3.8.2　日本語 MailWorks for OpenVMS とローカル TS の設定 3–7
3.8.3　日本語 MailWorks for OpenVMS とリモート TS の設定 3–7
3.9　日本語 MailWorks for OpenVMS と DDS の設定 3–9
3.9.1　日本語 MailWorks for OpenVMS(DDS なし) の設定 3–9
3.9.2　日本語 MailWorks for OpenVMS VAX とローカル DDS の設定 3–9
3.9.3　日本語 MailWorks for OpenVMS と DDS コンセントレータの設定 3–10
3.9.4　日本語 MailWorks for OpenVMS と DDS ディストリビュータの設定 . . . 3–11
3.10　異なる設定に必要なファイル 3–13
3.11　OpenVMS 上での TCP/IP トランスポート・サービスの設定 3–13
3.12　問題点の通知 3–15

A　日本語 MailWorks のインストレーション例

A.1　新規インストレーション例 A–1
A.2　アップグレード・インストレーション例 A–6
A.3　Alpha システムへのインストレーション例 A–9

B　システムにインストールされるファイル，論理名およびプロセス

B.1　ファイル名 B–1
B.2　論理名 B–6

表

1–1　ディスク領域の必要条件 1–8
3–1　ユーザ・アカウント・クォータ 3–2
B–1　インストールされるファイル B–1
B–2　システム・ワイドな論理名 B–7
B–3　スタートアップ時に使用されるコマンド・ファイル B–9
B–4　インストレーション中に起動されるプロセス B–10

まえがき

本書の目的

本書では，日本語 MailWorks for OpenVMS V1.3A（以降日本語 MailWorks と呼びます）のインストール方法について説明します。

関連ドキュメント

日本語 OpenVMS, 日本語 DECwindows およびビデオ・ターミナル (VT) クライアントをサポートする日本語 MailWorks では，以下のマニュアルを提供しています。

- 『日本語 MailWorks for OpenVMS VT ユーザーズ・ガイド』
- 『*MailWorks for OpenVMS System Manager's Guide*』
- 『*DEC MAILworks for OpenVMS Video Terminal Quick Reference*』
- 『*DEC MAILworks for OpenVMS DECwindows Use*』

また，次のドキュメントも役立ちます。

- OpenVMS V5.0 ドキュメント・セット
- 『*Message Router Installation Guide*』および『*Message Router Configuration Guide*』

本書で使用する表記法

本書では，次の表記法を使用します。

CTRL/x, CTRL-x	最初のキーを押したまま 2 番目のキーを押すことを示します。たとえば CTRL/x は CTRL キーを押しながら x キーを押します。
DEC MailWorks, MailWorks	文中の DEC MailWorks と MailWorks は，同一の製品を意味します。
AXP, Alpha	文中の AXP と Alpha は同じ意味で使用しています。

1

インストレーションの準備

本章では，VAX 版と Alpha 版に共通な日本語 MailWorks for OpenVMS V1.3A のインストレーションに必要な情報について説明します。

日本語 MailWorks にアクセスするクライアントをインストールする場合は，必要な製品のインストレーション・ガイドをお読みください。

日本語 MailWorks では，オンラインでリリース・ノートが提供されています。日本語 MailWorks をインストールする前の VMSINSTAL プロシージャの最初に，日本語 MailWorks リリース・ノートを表示あるいは印刷するかどうかを聞いてきます。リリース・ノートの設定のための Options N を含む VMSINSTAL コマンドについては，第 2.2.1 項を参照してください。このリリース・ノートには，適切なインストレーション情報が含まれている場合があるので，インストレーションを行う前に必ずお読みください。

インストレーション後，このリリース・ノートは次のファイルに置かれます。

```
SYS$HELP:A1MAIL013.RELEASE_NOTES
```

1.1 必須ソフトウェアおよびオプション・ソフトウェア

本節では，日本語 MailWorks V1.3A をインストールする前にシステム上にインストールしなければならないソフトウェアについて説明します。

- OpenVMS VAX
  - 必須ソフトウェア

    日本語 OpenVMS VAX オペレーティング・システム V5.5-2 以降
    DECnet for OpenVMS VAX V5.5 以降
    あるいは DECnet/OSI for OpenVMS VAX V5.6B ECO 10 以降
  - オプション・ソフトウェア

    VAX Message Router V3.3 以降
    日本語 DEC TCP/IP Services for OpenVMS VAX V3.2
    CDA Converter Library for OpenVMS V2.2
    CDA Converter Library-J for OpenVMS VAX V1.0
    PATHWORKS for OpenVMS V4.2 以降
    (TeamLinks for Windows 新着メール通知機能を使用する場合にのみ，必要)

- OpenVMS AXP
  - 必須ソフトウェア

    日本語 OpenVMS AXP オペレーティング・システム V6.1
    DECnet for OpenVMS AXP V6.1
    あるいは DECnet/OSI for OpenVMS AXP V5.8 以降
  - オプション・ソフトウェア

    VAX Message Router V3.3A
    (注意: Message Router は VAX 上でのみ動作します。 Alpha 上からはリモート・アクセスすることが必要です)
    日本語 DEC TCP/IP Services for OpenVMS AXP V3.2
    PATHWORKS for OpenVMS V4.2 以降
    (TeamLinks for Windows 新着メール通知機能を使用する場合にのみ，必要)

以下のオプションの構成要素は，日本語 MailWorks をインストールする前にあらかじめインストールされていなければなりません。これらの構成要素は，サーバをインストールするノードと同一のノード上にインストールしなければなりません。

- KEYpak

  KEYpak はオプションのコンバータ・ライブラリで，システムにインストールされていれば日本語 MailWorks は自動的に使用します。 KEYpak は日本語 MailWorks をインストールした後でもインストールできます。ただし，この場合にはシステムで構成されている全メール・サーバを再起動する必要があります。

  VAX システムのみ

  KEYpak がインストールされていて，これを用いて WordPerfect を他の形式に変換する場合に潜在的な問題があります。ALL–IN–1 WordPerfect が WordPerfect のバージョン (V4.n, V5.n) を区別しないで送信する場合がありますが (WordPerfect それ自体は両方のバージョンを扱えるからです)， KEYpak ソフトウェアは WordPerfect V4 と V5 を区別する必要があります。したがって， WordPerfect のバージョンを正しく指定しないと， KEYpak の実行が失敗します。

- 日本語 DECwindows

  メール・システムで DDIF 文書を使用する前に，日本語 OpenVMS DECwindows 構成要素をインストールしなければなりません。日本語 DEC MAILworks for OpenVMS DECwindows をインストールする前に，日本語 OpenVMS V5.5-2 以降でいっしょに配布される，日本語 DECwindows 構成要素をインストールしてください。

- TCP/IP

  TCP/IP を実行する場合，日本語 DEC TCP/IP Services for OpenVMS をシステムにインストールする必要があります。詳細は『日本語 DEC TCP/IP Services for OpenVMS インストレーション・ガイド』を参照してください。

ノードをまたがって，あるいは VAX または Alpha クラスタをまたがってメッセージを送信したい場合，もしくは他のメッセージング・システムにメッセージを送信したい場合は， Message Router がローカルあるいはリモートに設定されていなければなりません。メッセージング・システムが自分自身のノード上あるいは VAX または Alpha クラスタ上に存在する場合があるかも知れません。もしローカル Message Router を使用している場合は，日本語 MailWorks for OpenVMS がインストールされる前にローカル Message Router がインストールされ，設定され，起動されていなければなりません。

1.2 必要なハードウェア

日本語 MailWorks for OpenVMS DECwindows は，実行およびインストレーション中に行われるインストレーション検証プロシージャ (IVP) の実行に DECwindows 表示装置を必要とします。

1.3 日本語 MailWorks V1.3A AXP に特有の制限事項

以下の制限事項は，日本語 MailWorks V1.3A OpenVMS AXP に適用されます。

- VAX あるいは Alpha のみの単一クラスタのみがサポートされます。 VAX と Alpha の混合クラスタはサポートされません。
- ローカル Message Router はありません (TS あるいは DDS)。
- DECwindows のサポートはありません。
- 日本語 DEC MAILworks for Windows と日本語 DEC MAILworks for Macintosh はサポートされません。
- WPSPLUS および DX と DX および TEXT との間の変換はサポートされません。 WPSPLUS および DX を使用するには， KEYpak あるいは CDA をインストールしなければなりません。

1.4 OpenVMS ライセンス管理機能

必要なライセンス登録情報については日本語 MailWorks と一緒に出荷されるプロダクト・オーソライゼーション・キー (PAK) に含まれています。 PAK とはある特定のソフトウェアを実行する場合に必要なライセンス情報が入っている証書です。

次のライセンスが提供されています。

- 日本語 MailWorks サーバ for OpenVMS

  このライセンスは必ず登録してください。日本語 MailWorks サーバ for OpenVMS は，他の構成要素 (VT および DECwindows インタフェース) をインストールする前に必要です。

- 日本語 MailWorks for OpenVMS DECwindows

  DECwindows インタフェースをインストールしない場合には，このライセンスを登録する必要はありません。

- 日本語 MailWorks for OpenVMS ビデオ・ターミナル

  VT インタフェースをインストールしない場合には，このライセンスを登録する必要はありません。

【 MailWorks ライセンス登録】

MailWorks ライセンスはインストレーションを行う前に登録しておいてください。インストレーション中にライセンスの登録および適当なオーソライゼーション・キーのロードを行ったかどうか問い合わせがあります。まだ登録を行っていない場合でもインストレーションは完了しますが，日本語 MailWorks ソフトウェアまたはそのインストレーション検証プロシージャ (IVP) を実行することはできません。

【 OpenVMS ライセンス登録】

日本語 OpenVMS V5.5-2 でライセンスを登録するには，まず最初にシステム管理者のアカウント (SYSTEM) にログインします。次に，以下のいずれかの方法で登録を実行します。

- SYS$UPDATE:VMSLICENSE.COM プロシージャを起動します。情報の問い合わせに対しては，プロダクト・オーソライゼーション・キー (PAK) のデータを応答してください。
- 次の例に示すように， PAK 情報に対応する適切な修飾子を付けて DCL コマンド LICENSE REGISTER を実行します。

```
$ LICENSE REGISTER "ALLIN1-MAIL-SERVER" -
/ISSUER="DEC" -
/AUTHORIZATION=xxx000000 -
/PRODUCER=DEC -
/UNITS=0 -
/TERMINATION="31-JAN-1995" -
/VERSION=1.1 -
/CHECKSUM=1-AAAA-BBBB-CCCC-DDDD
```

  注：これは有効なライセンスではありません。

LMF の使用についての詳細は OpenVMS V5.0 ドキュメント・セットの『*VMS License Management Utility Manual*』を参照してください。

1.4.1 サーバのパーソナル・ユース・ライセンスのインストレーション

OpenVMS と PC クライントからなるサーバにパーソナル・ユース・ライセンスをインストールする場合，次のユーザをサーバ・ライセンスに登録してください。

- SYSTEM
- MUAS$SERVER
- MUASNET

OpenVMS クライアントのみから構成されるサーバにパーソナル・ユース・ライセンスをインストールする場合，次のユーザをサーバ・ライセンスに登録してください。

- SYSTEM
- MUAS$SERVER

1.5 日本語 MailWorks をはじめてインストールするときの準備

日本語 MailWorks のインストレーションをはじめて行う場合の一般的考察を次に示します。

- Message Router をインストールすべきかどうか

  Message Router により，他のノードへメールを送信でき，また OpenVMS Mail， ALL–IN–1 統合オフィス・システムなどの他のメール・システムや PROFS などの IBM システムにメールを送信できます。

  Message Router をインストールする場合は，詳細については『*Message Router Installation Guide*』および『*Message Router Configuration Guide*』を参照してください。ただし， Message Router を構成する問い合わせがあった場合には，カスタマイズ構成を選択し，メニューから‘‘省略時設定’’を選択することをおすすめします。これにより，必要に応じて後でその構成を変更したり，個々のシステムに適さない省略時設定を書き換えることができます。

  Message Router をインストールしない場合には，別のノード (クラスタ) 上のユーザ， OpenVMS Mail ユーザ，あるいは何らかのゲートウェイを介して他ベンダの製品へメールを送信することはできません。

  PC-LAN システムのように，ローカル・ノードだけにメールを送信する場合は，Message Router をインストールする必要はありません。

  Message Router はメールボックスを通信路として使用し，異なるメール・エージェントにメッセージを渡します。日本語 MailWorks をインストールして Message Router の使用を選択した場合，作成されたメールボックスは AM と呼ばれます。この省略時の名前はインストレーション時に書き換えることができます。

- サーバ・プロセスをシステムのどのノードで実行させるか

  サーバ・プロセスは次のとおりです。

  – MUAS$SERVER（メールの送信および配信をすべて処理する）

  – A1MAIL$CONNECT（PC 等のクライアントからの接続を処理する）

  – A1MAIL$DIRECT_nnn（同時に複数の DDS サーチを処理する）

  – A1MAIL$PRINT（PC 等のクライントからの印刷を処理する）

  これらのプロセスを常に同一ノード上で実行させます。別々のノード上で実行させることはできません。

  クラスタ内のマシンの CPU サイズ，予想されるメールの量，各マシンのユーザ数など，考慮すべき点があります。

  日本語 MailWorks をローカル Message Router と一緒に実行する場合，MUAS$SERVER_nnn は Message Router と同じノードで実行させてください。Local Area VAX Cluster(LAVC) 構成では，ブート・ノードで実行させます。クラスタでは複数ノードでサーバを実行することができます。

  『*MailWorks for OpenVMS System Manager's Guide*』の説明にあるように，インストレーションの後でもシステム管理ユーティリティ X4MANAGER を使用して構成を変更することができます。

- どのユーザ・インタフェースを使用するか

  DECwindows ユーザ・インタフェースとビデオ・ターミナル・インタフェース (コマンド行) から選ぶことができます。

  インストレーション中にどのインタフェースを使用するかの問い合せがあります。どのような組み合せも可能です。

  以前にインストールされていなかった構成要素をあとで追加したい場合は，VMSINSTAL を起動して，追加する単一または複数の構成要素をメニューから選択することにより，追加できます。

- システムのどのディクスクが作業領域として利用できるか

  インストレーションは省略時の作業領域に装置 SYS$SYSDEVICE を設定しますが，入力および出力集中作業を他のユーザ・ディスクに分散させるようにおすすめします。

  すべての MUAS サーバは，これらに共通なツール，データおよび作業ファイル用に共通の作業領域を使用します。 MUAS 共通領域をどのディスク上に置くかを聞いてきます。

  クライアントは様々なファイルを格納するために約 3,500 ブロックの単一ライブラリ領域を必要とします。インストレーション中にこの MailWorks ライブラリを置くディスクを聞いてきます。

  各 MUAS$SERVER_nnn は作業領域として異なるディスクで使用できます。各 MUAS$SERVER_nnn 毎にどのディスクを使用するか問い合わせがあります。

- MUAS$SERVER アカウントとしてどの UIC を使用するか

  このアカウントはインストレーション・プロシージャにより自動的に作成されるもので，専用アカウントになります。 GROUP 番号はなるべく固有なもので，他のユーザ・アカウントと一致しないようにしてください。また， GROUP 番号は SYSGEN パラメータの MAXSYSGROUP より大きくなければなりません (つまり SYSTEM アカウントではいけません)。

  UIC は固有なものにしてください。そうしないとインストレーションは失敗します。

  インストレーション・プロシージャはインストレーション中に UIC について問い合わせます。

  MAXSYSGROUP の値を調べるには SYSGEN ユーティリティを起動し，次のコマンドを入力してください。

```
SYSGEN> SHOW MAXSYSGROUP
SYSGEN> EXIT
```

  インストレーション・プロシージャにより 2 番目のアカウント MUASNET が自動的に作成されます。 MUASNET アカウントには MUAS$SERVER と同じ GROUP 番号が付いていますが， USER 番号は異なります。また， UIC アカウントも固有のものでなければいけません。

  MUASNET アカウントは A1M$DIRECT_nnn プロセスとの通信に使用します。また， MUASNET アカウントには NETMBX 特権と TMPMBX 特権があり，ネットワーク・アクセスにのみ使用されます。

1.6 インストレーション・プロシージャの条件

次の節では，日本語 MailWorks をインストールする際の様々な必要条件について説明します。

1.6.1 時間

インストレーションは Micro VAX II 上で約 50 分かかります。この所要時間は，媒体の種類やシステム構成によって異なります。このうち，新規インストレーションのために全質問に答えるのに要するのは 5 分だけで，残りはファイルの作成および構成の設定などに使用されます。

OpenVMS AXP システムでは，インストレーションに約 15 分かかります。

1.6.2 特権

日本語 MailWorks for OpenVMS V1.3A をインストールするには，少なくとも次の特権を持つアカウントにログインする必要があります。

- WORLD
- CMKRNL
- SYSPRV
- SYSNAM
- OPER

VMSINSTAL は，インストレーション開始時に BYPASS 特権を無効にします。インストレーションがアップグレードの場合， A1MAIL$LIBRARY 領域にあるファイルが MUAS$SERVER に所有されていない場合， BYPASS 特権が設定され，A1MAIL$LIBRARY 領域にあるファイルの所有権が変更されます。

1.6.3 BYTLM および ENQLM クォータ

エンド・ユーザの BYTLM は，少なくとも 20,000 に設定します。非同期接続を用いて TeamLinks クライアントから接続するユーザの BYTLM は， 60,000 に設定します。クォータ設定に関する詳細は， TeamLinks のマニュアルを参照してください。

エンド・ユーザの ENQLM 値は，少なくとも 100 に設定します。

1.6.4 ディスク領域

完全に日本語 MailWorks for OpenVMS V1.3A キットをインストールするには，インストレーション中に 23,000 ブロックの空き記憶ディスク領域が必要です。一度日本語 MailWorks をインストールすると，必要な記憶領域はこれより少なくてすみます。表 1–1 は日本語 MailWorks の記憶領域の必要条件をまとめたものです。ただし，ブロック数は全て概数です。

表 1–1 ディスク領域の必要条件

説明	インストレーション中のブロック数	インストレーション後のブロック数
すべての構成要素	23,000†	15,000

†インストレーションのオーバ・ヘッドを含みます。

1.6.4.1 GBLPAGES および GBLSECTIONS の値の計算

日本語 MailWorks をインストールおよび実行するには GBLPAGES および GBLSECTIONS システム・パラメータを正しい値に設定しなければなりません。

GBLPAGES および GBLSECTIONS 値は次のようにしてください。インストレーションを問題なく実行するために，少なくとも 7,650 の未使用ページと 75 の未使用セクションがシステム上で利用可能でなければなりません。

注意

日本語 MailWorks を Alpha システム上にインストールする場合は，122,400 ページレット (ページではなく) が必要です。ここで，1 ページは 16 ページレットに相当します。

システムにある未使用のグローバル・ページおよびグローバル・セクションの数を計算するには次のようにします。

```
$ WRITE SYS$OUTPUT F$GETSYI("FREE_GBLPAGES")
$ WRITE SYS$OUTPUT F$GETSYI("FREE_GBLSECTS")
```

これらの値が必要値よりも少ない場合は，増やしてください。

1.6.4.2 システム・パラメータ値を AUTOGEN で変更する

AUTOGEN コマンド・プロシージャを使用してシステム・パラメータが変更できます。 AUTOGEN は手動で再設定したパラメータ値に関連するものを自動的に調整します。 AUTOGEN でシステム・パラメータを変更するには，次のファイルを編集します。

```
SYS$SYSTEM:MODPARAMS.DAT
```

たとえば，SYSGEN パラメータのグローバル・ページを増やすには，次のようにします。

```
ADD_GBLPAGES = 2000
```

ここで，AUTOGEN プロシージャを実行してシステム・パラメータを再計算させます。 DCL プロンプトで次のコマンドを入力してください。

```
$ @SYS$UPDATE:AUTOGEN GETDATA REBOOT
```

AUTOGEN は自動的にシステムをシャットダウンし，それが終了するとリブートします。システムをリブートすると新しいパラメータ値が有効になります。 OpenVMS システムでは，AUTOGEN コマンド行に[NO]FEEDBACK パラメータを追加できます。 AUTOGEN の使用の詳細については，『*Guide to Setting Up a VMS System*』を参照してください。

1.6.5 VMSINSTAL の必要条件

VMSINSTAL を起動するときには，以下の必要条件を確認してください。

- 特権つきアカウントにログインしているか
- インストレーションを行うのに適切なクォータがあるか
- システムにログインしているユーザが他にいないか

インストレーション中に VMSINSTAL が何か問題を検知すると，その問題を通知し，インストレーションを継続するかどうか問い合わせてきます。場合によっては，YES と入力してインストレーションを継続できます。インストレーション処理を中止するには，NO と入力するか Return キーを押してください。問題を修正してからインストレーションを開始してください。

1.6.6 システム・ディスクのバックアップ

インストレーションのはじめに，システム・ディスクのバックアップを行ったかどうか聞いてきます。オペレーティング・システム上にソフトウェアをインストールする前には，システム・ディスクのバックアップを行うようおすすめします。

また，MUAS および A1MAIL$LIBRARY 共通領域をバックアップすることも重要です。さらに，サーバが割り当てられている各領域をバックアップすることも考慮する必要があります。

自分のサイトで確立されているバックアップ・プロシージャを使用します。システム・ディスクのバックアップの詳細については，『*OpenVMS Backup Utility Manual*』を参照してください。

1.7 日本語 MailWorks for OpenVMS と Message Router

V1.3A 以前のリリースでは，DDS にアクセスするために，日本語 MailWorks ターゲット・ノード上に，日本語 MailWorks for OpenVMS と DDS 構成要素を含む Message Router がインストールされる必要がありました。すなわち，日本語 MailWorks が動作する各システム上で DDS が管理されている必要があり，結果として多くの DDS ノードが必要になりました。多くの DDS ノードを持つ大規模なネットワークでは，DDS の更新は多大な時間がかかり，資源を消費し，さらに管理を難しくします。本バージョンでは，DDS が日本語 MailWorks ターゲット・ノード上にインストールされ，設定されなければならない制約をなくしました。

ユーザのシステムおよび設定により，3 通りの日本語 MailWorks for OpenVMS と Transfer Service (TS) の設定，および 4 通りの日本語 MailWorks for OpenVMS と DDS の設定があります。 DDS コンセントレータおよび DDS ディストリビュータを除くすべての設定は，V1.2 の設定と同じです。

- 日本語 MailWorks for OpenVMS (TS なし)
- 日本語 MailWorks for OpenVMS とローカル TS
- 日本語 MailWorks for OpenVMS とリモート TS
- 日本語 MailWorks for OpenVMS (DDS なし)
- 日本語 MailWorks for OpenVMS とローカル DDS
- 日本語 MailWorks for OpenVMS と DDS コンセントレータ
- 日本語 MailWorks for OpenVMS と DDS ディストリビュータ

これらの設定については，第 3 章も参照してください。また，これ以外の設定については，『*MailWorks for OpenVMS System Manager's Guide*』を参照してください。

1.7.1 リモート Message Router の情報収集

この節では，次の用語が使用されます。

LOCAL	日本語 MailWorks を実行するローカル・クラスタ
REMOTE	Message Router が実行されているリモート・クラスタ
AM_LOCAL	LOCAL の日本語 MailWorks サーバ用の Message Router Mailbox (mbx)。このメールボックスはクラスタ，REMOTE 上にあります。

注意

REMOTE クラスタのクラスタ・ソータ・ノード上に Message Router Mailbox (mbx) を作成することをおすすめします。

リモート Message Router 構成で日本語 MailWorks の実行をするには，リモート Message Router に関する情報を集める必要があります。初めてのインストレーションであるとか，現在の日本語 MailWorks のバージョンをリモート Message Router 構成に変更するとかにかかわらず，実行前にこれらの情報が必要です。

1. メールボックスの名称を決めます。インストレーション例では，AM_LOCAL としています。 MR_MAILBOX_NAME についての詳細は，『*MailWorks for OpenVMS System Manager's Guide*』を参照してください。
2. リモート Message Router のあるノードあるいはクラスタ名を決めます。インストレーション例では，ノード名は REMOTE としています。 MR_NODE についての詳細は，『*MailWorks for OpenVMS System Manager's Guide*』を参照してください。
3. リモート Message Router のパスワードを決めます。ノード LOCAL に対しては X4MANGER で，ノード REMOTE に対しては MRMAN でパスワードがそれぞれ設定されます。 MR_PASSWORD についての詳細は，『*MailWorks for OpenVMS System Manager's Guide*』を参照してください。

4. ローカル・ルーティング・アドレスをどのようにするかを決めます。インストレーション例では，ローカル・ルーティング・アドレスは AM_LOCAL@REMOTE のようになります。 LOCAL_ROUTING_ADDRESS についての詳細は，『*MailWorks for OpenVMS System Manager's Guide*』を参照してください。

注意

V1.3A では，Alpha システム上でのローカル Message Router TS あるいは DDS はサポートされません。

5. タイム・オフセットが何であるかを決めます。 TIME_OFFSET についての詳細は，『*MailWorks for OpenVMS System Manager's Guide*』を参照してください。

1.7.2 リモート Message Router の初めてのインストレーション

必要な情報が集まったら，以下を実行します。

1. VMSINSTAL ユーティリティを起動して日本語 MailWorks のインストレーションを開始します。

   インストレーション中に次のプロンプトが表示されます。これらのプロンプトはリモート Message Router 構成に関係します。集めた情報に従って，質問に答えます。付録 A のインストレーション例から，これらのプロンプトがどこで表示されるかがわかります。

   * Configure Message Router Transfer Service option [1]:
   * Message Router mailbox name [AM_NODEA]:
   * Node where Remote Message Router is located [ ]:
   * Remote Message Router Password:
   * Local routing address [AM_NODEA@NODEB]:
   * Time offset:

2. Message Router メールボックスをリモート・ノード上に作成します。これについては，第 1.7.4 項を参照してください。
3. SYS$STARTUP:A1MAIL$STARTUP.COM がローカル・クラスタ内のすべてのノードおよびサテライトで実行されているかを確認してください。
4. 日本語 MailWorks がインストールされたノード上でクライアントを起動します。また，Message Router を通してメールを送信します。問題がある場合は，『*MailWorks for OpenVMS System Manager's Guide*』を参照して，Message Router の問題解決を行ってください。

1.7.3　現在インストールされている日本語 MailWorks の変更

Message Router を使用して現在インストールされている日本語 MailWorks を変更するには，以下の手順を実行します。

1. すべてのノード上にある日本語 MailWorks サーバを停止します。

   日本語 MailWorks サーバ構成を持つ各ノードで次の一連のコマンドを実行します。

   ```
   $  X4MANAGER
   X4MAN.MAIL>   MANAGE REMOTE_SERVER
   X4MAN.REMOTE> STOP CONNECT
   X4MAN.REMOTE> STOP PRINT
   X4MAN.REMOTE> MANAGE MAIL_SERVER
   X4MAN.MAIL>   STOP
   ```

2. スタートアップ・スクリプトを編集し，属性の変更を行い，収集した情報を使用します。

   a. 次のように共通のスタートアップ・スクリプトを変更します。

      ```
      $ X4MAN
      X4MAN.MAIL> EDIT
      ```

      このコマンドによって，共通のスタートアップ・スクリプトを編集するエディタが起動されます。ファイル内で追加および変更を行うための属性に関する詳細は，第 1.7.6 項を参照してください。ファイルを変更したら，エディタを終了してください。

   b. サーバ固有のスクリプトを使用している各サーバには，次の一連のコマンドを実行し，リモート Message Router 構成に固有のスタートアップ・スクリプトを変更します。

      ```
      $ X4MAN
      X4MAN.MAIL> EDIT /SPECIFIC
      ```

   このコマンドによって，サーバ固有のスタートアップ・スクリプトを編集するエディタが起動されます。ファイル内での追加および変更を行うための属性に関する詳細は，第 1.7.6 項を参照してください。ファイルを変更したら，エディタを終了してください。

3. 日本語 MailWorks を使用するすべてのノードでスタートアップ・プロシージャを起動します。スタートアップに必要な特権を用いてプロファイルを設定しなければなりません。このプロシージャは，サーバ・ノード上にリモート Message Router 構成を持つサーバを再起動し，ローカル・ルーティング・アドレスのような，クライアント・ノード上のクライアントに使用される適切な論理名を定義します。 SYSMAN ユーティリティを使用して，以下のようにします。

```
$ MCR SYSMAN
SYSMAN> SET ENVIRONMENT/CLUSTER
SYSMAN> SET PROFILE/PRIV=ALL
SYSMAN> DO @SYS$STARTUP:A1MAIL$STARTUP
SYSMAN> EXIT
$
```

4. Message Route メールボックスの作成方法については，第 1.7.4 項を参照してください。
5. ローカル・ノードに正しいイメージを置くには，第 1.7.5 項を参照してください。
6. SYS$STARTUP:A1MAIL$STARTUP.COM がクラスタ内のすべてのノードおよびサテライトで実行されていることを確認してください。
7. 日本語 MailWorks がインストールされたノード上にクライアントを起動し，Message Router を通してメールを送信します。問題がある場合は，『*MailWorks for OpenVMS System Manager's Guide*』を参照して，問題解決を行ってください。

1.7.4 Message Router メールボックスの作成

次の手順に従って，Message Router が実行されているノード上に Message Router メールボックスを作成します。

1. リモート・クラスタのクラスタ・ソータ・ノードにログインします。インストレーション例では，ノード名は REMOTE です。
2. MRMAN を起動し，またそれを使用できるだけの特権を持っているかを確認します。このユーティリティに関する詳細は，Message Router システム・マネジメントのマニュアルを参照してください。
3. Message Router システム・マネージメント・ユーティリティを起動します。

```
$ MCR MRMAN
```

4. メールボックスを作成します。メールボックスの名前は，インストレーション中に入力された（またはスタートアップ・コマンド・プロシージャで変更された MAILBOX_NAME の）名前と同じでなければなりません。また，パスワードはインストレーション・プロシージャ中に入力された（またはスタートアップ・コマンド・プロシージャで変更，もしくは X4MANGER SET MR_PASSWORD コマンドを使って変更された）パスワードと同じでなければなりません。

```
$  MCR MRMAN
MRM>  ADD <mailbox> /SUPPRESS_DELIVERY_REPORTS -
_MRM> /PROBES_RELAYED /COMPLETE_MESSAGES
_MRM> /IGNORE_SENDER /SERVICE_MESSAGES
_MRM> /PASSWORD=<password>
MRMAN>
```

1.7.5 Message Router イメージのローカル・ノードへの複写

日本語 MailWorks を VAX システム上にインストールする場合，日本語 MailWorks がインストールされる予定のノード上に Message Router V3.3 イメージが存在していなければなりません。イメージが存在しない場合， Message Router がインストールされているノードの SYS$LIBRARY:MRAPPSHAR.EXE を，日本語 MailWorks がインストールされているノードの SYS$COMMON:[SYSLIB]に複写します。

注意

SYS$SPECIFIC:[SYSLIB]にイメージを複写しないでください。複写した場合，問題が生じる場合があります。

日本語 MailWorks を Alpha システム上にインストールする場合は，日本語 MailWorks のインストレーション中に必要なファイルが提供されます。

1.7.6 リモート Message Router 構成のスタートアップ・スクリプトを変更する

リモート Message Router が正しく実行されるように，次の属性が，スタート・アップ・スクリプトに正しく設定されていなければなりません。

```
SET MR_MAILBOX_NAME      AM_LOCAL
SET MR_NODE              REMOTE
SET MR_PASSWORD          <password>
SET LOCAL_ROUTING_ADDR   AM_LOCAL@REMOTE
SET TIME_OFFSET          "<time_offset>"
SET USE_MR
SET MR_POLL_INTERVAL     150
```

2

日本語 MailWorks のインストレーション

本章では，日本語 MailWorks for OpenVMS を VAX あるいは Alpha 上にインストールする方法について説明します。さらに，リリース・ノートへのアクセス，インストレーション検証プロシージャ (IVP) の実行，およびインストレーションの強制終了などについて説明します。付録 B には，インストレーション後にシステムにインストールされるファイル，論理名およびプロセスが載っています。

Alpha システムのみ

日本語 MailWorks for OpenVMS V1.3A では， VAX あるいは Alpha 単一クラスタのみをサポートしています。 VAX と Alpha の混合クラスタはサポートしていません。

2.1 インストレーション前のオンライン・リリース・ノートへのアクセス

日本語 MailWorks for OpenVMS はオンライン・リリース・ノートを提供しています。 VMSINSTAL を起動する際に OPTIONS N を指定すると，インストレーション・プロシージャはリリース・ノートを表示および印刷するかどうか聞いてきます。この問い合わせは，媒体がマウントされた後，残りのインストレーションが続行される前にあります。リリース・ノートには，インストレーション・プロシージャの変更情報が含まれている場合があるので，必ず参照してください。

VMSINSTAL を起動する際に OPTIONS N を指定すると，次のようにリリース・ノートを参照するためのオプションが 4 つ表示されます。

```
Release notes included with this kit are always copied to SYS$HELP.

Additional Release Notes Options:

    1. Display Release Notes
    2. Print Release Notes
    3. Both 1 and 2
    4. None of the above

* Select option [2]:
```

オプション 1 を選択すると， VMSINSTAL は直ちにリリース・ノートをコンソール端末に表示します。この表示は CTRL/C を押せばいつでも終了できます。

オプション 2 を選択すると， VMSINSTAL は使用するプリント・キューの名前を聞いてきます。

```
* Queue name [SYS$PRINT]:
```

キュー名を入力するか，あるいは Return キーを押してファイルを省略時の印刷装置に送ることができます。

オプション 3 を選択すると VMSINSTAL は直ちにリリース・ノートをコンソール端末に表示し，その後プリント・キューの名前を聞いてきます。

日本語 MailWorks のリリース・ノートはかなり長いので，オプション 2 の選択をおすすめします。

ここで，インストレーション・プロシージャはインストレーションを継続するかどうか聞いてきます。継続するには YES と入力してください。それ以外は RETURN キーを押します。いずれの場合でも，上記のオプション 4 を選択しない限り，リリース・ノートは SYS$HELP ディレクトリのファイルに複写されます。

```
* Do you want to continue the installation [N]?: YES
%VMSINSTAL-I-RELMOVED, The products Release Notes have been
   successfully moved to SYS$HELP.
```

リリース・ノートは次のファイルに置かれます。

```
SYS$HELP:A1MAIL013.RELEASE_NOTES
```

2.1.1 インストレーション検証プロシージャ (IVP) の実行

日本語 MailWorks のインストレーション検証プロシージャ (IVP) はインストレーションを確認するものです。インストレーション中に IVP を実行するかどうか問い合わせがあります。これに YES と答えると IVP が実行されます。日本語 MailWorks が正確にインストールされているかどうかを確認するために， IVP の実行をおすすめします。

日本語 MailWorks をインストールした後に IVP を単独で実行させて，ソフトウェアがシステム上で利用可能かどうか検査できます。また，システム障害の後に IVP を実行させて，ユーザが日本語 MailWorks にアクセス可能かどうか確認できます。

```
$ @SYS$TEST:A1MAIL$VMS_IVP
```

IVP は，言語として IVP に使われる国際標準化機構 (ISO) コードを指定するように通知してきます。省略時設定では，日本語 MailWorks に設定されている言語の ISO コードが使われます。有効な ISO コードのリストは，A1MAIL$LIBRARY:A1MAIL$LANGUAGES.DAT にあります。以下のメッセージが表示されます。

```
Please provide the iso code of the language you want
 to test with the IVP procedure.
Enter the Iso code [JA] :
```

IVP には，インストールされた構成要素に応じていくつかのテストが含まれます。そのテストについて，以下に説明します。

- 日本語 MailWorks サーバ for OpenVMS

  これは完全に自動化されているので，ユーザとの対話は必要ありません。このテストは常に IVP の一部として実行されます。

- コマンド行インタフェース

  これは完全に自動化されているので，ユーザとの対話は必要ありません。このテストはオプションです。

- DECwindows ユーザ・インタフェース

  このテストはオプションで，完結させるためにはユーザが操作する必要があります。ここで示す IVP 情報は， IVP の実行中にもユーザのターミナルに表示されます。

この IVP は日本語 MailWorks を起動しますが，指示ファイルを使ってメッセージを作成しなければなりません。

以下に手順を次に示します。

1. 「作成」ボタンをクリックする。
2. 作成ウィンドウの「ファイル」プルダウン・メニューで「取り込む...」を選択する。
3. A1MAIL$TEST:A1MAIL$DWVMS_IVP.TXT を読み込み，そこに書いてある指示に従う。

メッセージ中に読み込んだファイル A1MAIL$DWVMS_IVP.TXT には，日本語 MailWorks for OpenVMS DECwindows の IVP の指示が含まれています。これは対話型の IVP です。 IVP を実行する前に，このファイルの中のすべての指示をお読みください。

DECwindows の初心者の方は，確認を求めるボックスが表示された場合，その他の操作を行う前にボタンをクリックしなければいけないことに注意してください。

IVP の自動実行部分が実行されます。

2.1.2　インストレーションの強制終了

インストレーション・プロシージャを強制終了するには，いつでも CTRL/Y を押してください。 CTRL/Y を押すと，インストレーション・プロシージャはその時点までに作成したファイルを全て削除して終了します。その後，インストレーションは再起動できます。

インストレーションが完了する前にインストレーションを中止した場合は，別のインストレーションを行う前に以下を行ってください。

1. MUAS$SERVER および MUASNET アカウントが作成されたら， AUTHORIZE からエントリを削除し，ディレクトリ[MUAS$SERVER]を削除してください。
2. MUAS サーバの作業ディレクトリが作成されたら，これを削除してください。
3. A1MAIL$LIBRARY ディレクトリが作成されたら，これを削除してください。
4. MUAS$PROFILE_UPDATE 特権識別子が作成されたら，これを削除してください。
5. SYS$SYSTEM, SYS$MESSAGE, SYS$SHARE, SYS$TEST, SYS$MANAGER, SYS$STARTUP および SYS$HELP 領域に移動されたファイルは，すべて削除してください。 A1M, X400, MUAS および CTI で始まるファイルを検索してください。

2.2　インストレーション・プロシージャ

日本語 MailWorks for OpenVMS インストレーション・プロシージャは，一連の問い合わせおよび情報メッセージから構成されています。これらの問い合わせは，インストールしている構成要素や， VAX か Alpha システムのどちらにインストールしているかにより異なります。

2.2.1　VMSINSTAL の起動

インストレーションを起動するには， SYSTEM アカウントのような特権つきアカウントから VMSINSTAL コマンド・プロシージャを起動します。次の構文を使用して VMSINSTAL を起動します。

```
@SYS$UPDATE:VMSINSTAL A1MAILJA013 装置名 OPTIONS N
```

【 A1MAILJA013】
構成要素のインストレーション名。次の構文を持ちます。

```
ProductnameVersion
```

ここで " Version"はオプションです。

【装置名】
媒体をマウントしようとする装置の名前。たとえば，MUA0: はテープ・ドライブの装置名です。このインストレーションにコンソール・ドライブを使用する必要はありませんが，コンソール・ドライブを使用した場合にはインストレーションの終了後，はずした媒体を戻してください。

【 OPTIONS N】
リリース・ノートの表示および印刷の問い合わせを指定するオプション・パラメータです。この OPTIONS N パラメータを指定しない場合には，VMSINSTAL はリリース・ノートの表示や印刷を行うか聞いてきません。インストレーションを実行する前にリリース・ノートをお読みください。

VMSINSTAL には，その他にもいくつかのオプションがあります。詳細については，『*Guide to Getting Up a VMS System*』を参照してください。

次の例では，VMSINSTAL を起動してテープ・ドライブ MUA0: から日本語 MailWorks for OpenVMS をインストールするコマンドと，そのときのシステムからの応答を示します。この例では，リリース・ノートを印刷または表示する OPTIONS N パラメータを使用しています。

```
$ @SYS$UPDATE:VMSINSTAL A1MAILJA013 MUA0: OPTIONS N

      VAX/VMS Software Product Installation Procedure V5.5-2


It is dd-mmm-yyyy at hh:mm.
Enter a question mark (?) at any time for help.
```

製品名か装置名を指定しない場合は，VMSINSTAL はインストレーション・プロシージャの途中でこれらの情報を聞いてきます。 VMSINSTAL はオプションを聞いてこないので，インストレーションの際にリリース・ノートにアクセスするには，必ず VMSINSTAL コマンド行に OPTIONS N を指定してください。

2.2.2　インストレーションの問い合わせと選択

本節では，インストレーション中の問い合わせと選択について説明します。インストレーション・プロシージャの例については，付録 A を参照してください。

インストレーション中に答えなくてはならない問い合わせ，あるいは行わなくてはならない選択は各行頭に星印 (*) がついています。ほとんどの質問には[YES]のように省略時の応答が大括弧に示されています。省略時の応答を選択する場合には Return キーを押します。場合によっては，省略値は日本語 MailWorks により自動的にあるシステム特性に割り当てられています。この値を置き換える必要がある場合には，『*MailWorks for OpenVMS System Manager's Guide*』に述べられた X4MANAGER ユーティリティを使用して変更することができます。

【システム・バックアップ】
VMSINSTAL はシステム・バックアップを満たしているかどうか聞いてきます。インストレーションを実行する前に，常にシステム・ディスクをバックアップしてください。また，共通領域 MUAS および A1MAIL$LIBRARY もバックアップしてください。さらに，慎重を期して，設定した各サーバの共通領域もバックアップしてください。システム・ディスクのバックアップが十分な場合は Return キーを押します。その他の場合は NO と入力して，インストレーションを中止します。システム・ディスクをバックアップした後でインストレーションを再起動できます。

```
* Are you satisfied with the backup of your system disk [YES]?
```

【ファイルのパージ】
このインストレーションにより置き換えられた日本語 MailWorks for OpenVMS の前バージョンのファイルをパージするオプションがあります。

```
* Do you want to purge files replaced by this installation [YES]?
```

【インストレーション検証プロシージャ (IVP) の実行】
ここで，インストレーション・プロシージャはインストレーション検証プロシージャ (IVP) を実行するかどうか聞いてきます。日本語 MailWorks for OpenVMS の IVP はインストレーションがうまく行われているかを確認します。

```
* Do you want to run the IVP after the installation [YES]?
```

【インストールするキットからの構成要素の選択】
このインストレーションでは，日本語 MailWorks 製品群の異なる要素をいくつか選択できます。選択枝は次のとおりです。

- 日本語 MailWorks サーバ for OpenVMS

  これはメール・システムの中枢であり，あらかじめシステムにインストールしておくか，あるいはこのインストレーションの一部としてインストールしてください。

  サーバを実行するには， OpenVMS ライセンスが必要です。

- 日本語 MailWorks for OpenVMS DECwindows

  Alpha システムのみ

  V1.3A では，日本語 MailWorks for OpenVMS DECwindows は Alpha システムではサポートされません。

  これは，メール機能の DECwindows インタフェースを提供するクライアントです。日本語 MailWorks for OpenVMS DECwindows をインストールする前に，日本語 OpenVMS 5.5-2 以降とともに提供される DECwindows をインストールしておく必要があります。

  DECwindows 構成要素を実行するには， OpenVMS ライセンスが必要です。

- 日本語 MailWorks for OpenVMS ビデオ・ターミナル

  これはメール機能のコマンド行インタフェースを提供するクライアントです。

  コマンド行クライアントを実行するには OpenVMS ライセンスが必要です。

以下は，インストールする構成要素を選択するプロシージャを示しています。

```
The following menu lists all the choices potentially available
through this installation.  The server must have been installed
on the system previously, or you must choose it now.

Enter the components that you wish to install at this time as a
comma-separated list (ie, "1,2")

The installation guide has more details on these various
components.

      1) MailWorks/Japanese Server for OpenVMS
      2) MailWorks/Japanese for OpenVMS DECwindows
      3) MailWorks/Japanese for OpenVMS Video Terminals
      4) All of the above

CAUTION: If this is an upgrade from a previous version,
the clients must be upgraded also.

* Choose installation options [4]: 4
```

以下の問い合わせは，日本語 MailWorks サーバ・インストレーション部に固有です。

注意

日本語 MailWorks for OpenVMS V1.3A を初めてインストールする場合，以降で説明する一連の問い合わせがあります。ただし，日本語 MailWorks が既にインストールされている場合には，これらの問い合わせはありません。その代わりに，インストレーション・プロシージャは正しいライセンスが登録されているかどうかをただちにチェックします。

【日本語 MailWorks ライブラリ・ディスク】

日本語 MailWorks は様々なファイルを保持しておくための共通ディレクトリを作成します。この共通ディレクトリにはテンプレート・ファイル，登録済みエディタ・ファイルなどの共通ファイルが入ります。また，このディレクトリは，言語固有ファイルを含む複数の言語サブ・ディレクトリを持ちます。たとえば日本語のサブ・ディレクトリには日本語のすべてのテンプレート・ファイルが入っています。

ここでは使用するディスク名を入力してください。省略時設定は SYS$SYSDEVICE です。

```
* MailWorks/Japanese Library disk [SYS$SYSDEVICE]:
```

【サーバのライセンス登録】
インストレーション・プロシージャは，日本語 MailWorks サーバのオーソライゼーション・キーを登録およびロードしているかどうか問い合わせ，特定のライセンスに固有な情報を出力します。次に例を示します。

```
Checking license for server
Product:         ALLIN1-MAIL-SERVER
Producer:        DEC
Version:         1.2
Release Date:    dd-mmm-yyy
```

インストレーション・プロシージャは，次のように聞いてきます。

```
* Does this product have an authorization key registered and loaded [YES]?
```

【 MUAS 共通ディスク】
これは，サーバの共通ファイルが格納されるディスクです。このディスクにはプロファイル・データベースが保存されるので，ディスクのアクセスが多くなります。

```
* MUAS common disk [SYS$SYSDEVICE]:
```

【サーバ UIC】
MUAS$SERVER が使う UIC を入力するように問い合わせがあります。以下が表示されます。

```
        To ensure that the MailWorks/Japanese server runs in the
        proper environment, this installation procedure will create
        an account for the server.  This account, MUAS$SERVER, has
        no special privileges and it is not possible to log into
        this account.

        You must specify a unique UIC that is not a system UIC
        for this account to ensure proper security of the network.
        The password for this account will be generated. You do not need
        to know this password. It has been set as PRE-EXPIRED. If this
        scenario violates your security policies, you may change it after
        the installation has finished via the VMS AUTHORIZE utility.

*UIC to be used for MUAS$SERVER account in format [ggg,mmm]:
```

【ユーザ番号】
日本語 MailWorks サーバによって， MUAS$SERVER アカウントと同じグループ内に，（まだ作成されていない場合に）2 番目のアカウントを作成します。このアカウントには固有のユーザ番号を入力してください。

```
* User number to be used for MUASNET account in format: mmm:
```

【 Message Router の使用− VAX システムのみ】
次のように Message Router が使用できるように日本語 MailWorks を構成するかどうかの問い合わせがあります。

```
The following menu lists all the choices potentially available
through this installation.

Enter the option that you wish to support at this time.  Only a
single value is allowed, (ie, "1").

The installation guide has more details on these various components.

1)Configure to use Local Message Router Transfer Service
2)Do not configure to use Message Router Transfer Service
3)Configure to use Remote Message Router Transfer Service

* Configure Message Router Transfer Service option [2]:
```

- オプション 1 を選択すると，別のネットワーク上にある他のメール・システムにメールを送信することができます。たとえば OpenVMS Mail および ALL–IN–1 統合オフィス・システムにメールを送信することができます。
- オプション 2 を選択すると，ローカル・ノードにだけメールの送信ができます。
- オプション 3 を選択すると，ユーザは他のメール・システムあるいは他のネットワークにメールを送信できます。 Message Router Transfer Service は，リモート・ノードに置かれます。

【 Message Router メールボックス名】
VAX システム上で Message Router に関する問い合わせにおいて，オプション 1 あるいは 3 を選択した場合，あるいは Alpha システム上で日本語 MailWorks をインストールしている場合は， Message Router メールボックス名を以下のように聞いてきます。

```
* Message Router mailbox name [AM]:
```

ユーザ・ドキュメント内のすべての例ではメールボックスに AM が使用されているので，別の名前を使用する場合は各ユーザにお知らせください。

オプション 1 のローカルの Message Router Transfer Service を使う構成を選択した場合は，インストレーションはこのメールボックスがすでに作成されているかチェックします。メールボックスが既に存在するかどうかによって，次のメッセージのうちの 1 つが表示されます。

```
This is MRMAN V3.1
%AM - No mailbox found
```

あるいは

```
This is MRMAN V3.
1 AM, Owner=SYSTEM Notify=MUAS$NOTIF_FETCH_MBX
     Suppress_Delivery_Reports Probes_Relayed
     Complete_Messages Ignore_Sender Service_Messages
* Mailbox exists - use it [YES]?
```

この既存のメールボックスを使用しない場合には，別のメールボックスを再度聞いてきます。

VAX システム上でオプション 3 のリモートの Message Router Transfer Service を使う構成を選択した場合，あるいは Alpha システム上で日本語 MailWorks をインストールしている場合は，次の追加プロンプトが表示されます。

```
* Node where remote Message Router is located?
```

リモート Message Router のあるノードの名前を入力してください。

Alpha システム上でインストールしている場合，あるいは VAX システム上でオプション 3 のリモートの Message Router Transfer Service を使う構成を選択した場合，Message Router が動作するノード上にメールボックスを作成しなければなりません。

VAX システム上で Message Router をインストールしている場合は，イメージは日本語 MailWorks が置かれているノード上に存在しなければなりません。存在していない場合，イメージをシステム領域にコピーしてください。このイメージをコピーする方法については，第 1.7.5 項を参照してください。

【リモート Message Router パスワード】
リモート Message Router Transfer Service を使用している場合は，リモート Message Router が置かれているノードにパスワードを作成しなければなりません。以下が表示されます。

```
* Node where Remote Message Router is located : NODEB

       The password must match the  one that is set in the X4MANAGER
       utility.  The password must  be between 8  and  31 characters
       long.   If  the  user  wants  to  check  the  mailbox  using:
       MRMAN SEND/IDENT,   then the combined length  of  the mailbox
       and password should be between 8 and 24 characters long.

* Remote Message Router Password :
```

ここではリモート・ノードのメールボックス作成時に使用するパスワードを入力します。

【ローカル・ルーティング・アドレス】
日本語 MailWorks は，送出メッセージ上に戻りアドレスを作成したり，メール・システムがローカル受信者にフラグを立てて配信の最適化を行うために，ローカル・ルーティング・アドレスを使用します。

ほとんどの構成では，ローカル・ルーティング・アドレスは次のようになります。

```
AM@YourNode
```

ただし，このインストレーションが領域コードをサポートするネットワーク上で行われる場合，ローカル・ルーティング・アドレスは次の形式になります。

```
AM@YourNode@YourArea
```

クラスタでは，" YourNode "の値は可能ならばクラスタの別名にします。そうしない場合には，サーバを実行をさせるノードの 1 つを選択してください。

```
* Local routing address [AM@node]:
```

【タイム・オフセット】
タイム・オフセットに関する問い合わせは， Message Router の使用についての質問で， Alpha システム上でインストールしている場合や， VAX システム上でオプション 1 か 3 を選択した場合に表示されます。タイム・オフセットとは，ローカル・タイムとネットワーク標準時との差のことです。形式± HHMM の 5 文字で入力し，最初の文字は + か−にしてください。 HH は時差であり MM は分差です。

たとえば，ネットワーク標準時から 5 時間遅れは –0500 と指定します。

```
* Time offset:
```

【リモート Message Router DDS】
リモート・システム上で Message Router DDS にアクセスする場合，以下の問い合わせに "Yes"と答えなければなりません。

```
Remote Message Router Distributed Directory Services is a configurable option.

        An answer of YES indicates that Remote Message Router Distributed
        Directory Services will be configured.

        An answer of NO indicates that Remote Message Router Distributed
        Directory Services will not be configured.

* Configure Remote Message Router DDS [NO]?
```

【構成に関する問い合わせ】
ここで， MUAS システムの構成を決める問い合わせがあります。さらに， MUAS サーバを構成するかどうかの問い合わせがあります。サーバの追加については，第 3.5 節を参照してください。

最初のサーバのノードの省略値が示されます。設定を終了するには，サーバのノードの問い合わせに CTRL/Z を押します。

- Node for server 000 [YOURNODE]:

  ノード名は大括弧に表示されます。 Return キーを押すか，あるいはサーバを実行させたいノードを入力してください。

- Disk for server 000 [SYS$SYSDEVICE]:

  省略値 SYS$SYSDEVICE が大括弧に表示されます。 Return キーを押すか，あるいは別のディスクを指定してください。このディスクでは大量のディスク I/O を必要としますので SYS$SYSDEVICE は使用しないようおすすめします。

- Configure more servers [YES]?

  大カッコに YES あるいは NO が表示されます。さらに多くの MUAS サーバを構成する場合には，YES と答え，Return を押します。サーバ構成についての詳細は，『*MailWorks for OpenVMS System Manager's Guide*』を参照してください。

以下が表示されます。

```
        There will now be a dialogue to determine the MUAS system
        configuration.  You will be asked to specify the MUAS servers
        to be run on this node (and, for a cluster, other nodes).

        Servers are uniquely identified by a three-character name,
        typically composed only of numeric characters.

        You will be asked after each set if there are more servers
        to be configured.

        Use ^Z (CTRL-Z) to cancel an entry for a server node or
        server disk set.


* Node for server 000 [ROBINS]:
* Disk for server 000 [SYS$SYSDEVICE]:
* Configure more MUAS servers [YES]? NO

 MailWorks/Japanese system configuration is now complete.

 Note that if you want to alter the system configuration after
 installation, use the X4MANAGER utility as described in
 the MailWorks System Manager's Guide.
```

【コマンド行ユーザ・インタフェースでの問い合わせ】
コマンド行ユーザ・インタフェースのインストレーションの一部として，次の問い合わせがあります。

- ライセンス登録

  インストレーション・プロシージャは日本語 MailWorks for OpenVMS VT のオーソライゼーション・キーを登録およびロードしているかどうかの問い合わせがあり，特定のライセンスに固有の情報を出力します。たとえば，次のようになります。

```
Product:         ALLIN1-MAIL-VT-CLIENT
Producer:        DEC
Version:         1.1
Release Date     dd-mmm-yyyy
```

とくに，インストレーション・プロシージャは次のように聞いてきます。

```
* Does this product have an authorization key
registered and loaded?
```

オーソライゼーション・キーを登録およびロードしていない場合は，この問い合わせに NO と答えなければなりません。日本語 MailWorks のインストレーションの成功はオーソライゼーション・キーが登録およびロードされているかどうかに依存します。インストレーションを続ける前に，これが完了しているか確認してください。

- DDIF がサポートされていない場合の警告

  OpenVMS オペレーティング・システムの構成の中には，DDIF ドキュメントのサポートがインストールされていないものもあります。このサポートは DECwindows キットの一部なので，基本オペレーティング・システム・オプションとしてのみインストールできます。インストレーション中に DDIF サポートのイメージがインストールされていないことを検知すると次の警告が出力されます。

```
!!    This system does not have support for DDIF      !!
!!    viewers installed.  It will not be possible     !!
!!    to READ any messages containing DDIF.           !!
!!    Also, others sending DDIF messages to this      !!
!!    system may get non-delivery notifications.      !!
!!                                                    !!
!!  DDIF viewer support requires that DECwindows      !!
!!      be installed.                                 !!
!!                                                    !!
!!  If you install DECwindows after this installation,!!
!!   then re-start DEC MAILworks/Japanese.            !!
```

  これは，DECwindows ユーザ・インタフェースのインストレーション要求を無効にします。

【 DECwindows ユーザ・インタフェースでの問い合わせ】

DECwindows ユーザ・インタフェースのインストレーションの一部として，次の問い合わせがあります。

- ライセンス登録

  インストレーション・プロシージャは日本語 MailWorks for OpenVMS DECwindows のオーソライゼーション・キーを登録およびロードしているかどうかを問い合わせ，特定のライセンスに固有の情報を出力します。たとえば，次のようになります。

```
Product:       ALLIN1-MAIL-DW-CLIENT
Producer:      DEC
Version:       1.1
Release Date:  19-APR-1991
```

とくに，インストレーションは次のように聞いてきます。

```
* Does this product have an authorization key registered and loaded?
```

オーソライゼーション・キーを登録およびロードしていない場合は，これに NO と答えなければなりません。インストレーションにはこのライセンスは必要ありませんが，DECwindows ユーザ・インタフェースを実行する場合にはライセンスが必要です。

- 問い合わせの終わり

  インストレーションの問い合わせはこれで終わりです。結果に注目し，次節で述べる多くの情報メッセージに従ってください。情報メッセージに示されるインストレーション時間は，インストールすべき構成要素にもとづいた見積りを反映しています。

  VAX システム上でソフトウェアをインストールしている場合，以下が表示されます。

```
  This is the end of the questions that are asked by this installation
  The rest of the installation will take about 65 minutes
  on a MicroVax II class machine
```

  Alpha システム上でソフトウェアをインストールしている場合，以下が表示されます。

```
This is the end of the questions that are asked by this installation.
The rest of the installation will take about 13 minutes
on a DEC 3000 Model 300 class machine.
```

2.2.3 情報メッセージ

ここで，インストレーションの経過を示す色々な情報メッセージが表示されます。これ以降はインストレーションの問い合わせはありません。この情報メッセージを以下に示しますが，これと同じになるとは限りません。

```
%VMSINSTAL-I-RESTORE, Restoring product save set B ...
%VMSINSTAL-I-RESTORE, Restoring product save set D ...
%VMSINSTAL-I-RESTORE, Restoring product save set E ...
%VMSINSTAL-I-ACCOUNT, This installation creates an ACCOUNT named MUAS$SERVER.
%UAF-I-ADDMSG, user record successfully added
%UAF-I-RDBADDMSGU, identifier MUAS$SERVER value [000057,000001] added to right
s database
%VMSINSTAL-I-ACCOUNT, This installation updates an ACCOUNT named MUAS$SERVER.
%UAF-I-MDFYMSG, user record(s) updated
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[MUAS$SERVER].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[MUAS$SERVER.COM].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[MUAS$SERVER.DB].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[MUAS$SERVER.TOOLS].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[MUAS$SERVER.WRK].
%VMSINSTAL-I-ACCOUNT, This installation adds an identifier named MUAS$PROFILE_
UPDATE.
%UAF-I-RDBADDMSG, identifier MUAS$PROFILE_UPDATE value %X80010024 added to rig
hts database
%VMSINSTAL-I-ACCOUNT, This installation creates an ACCOUNT named MUASNET.
%UAF-I-ADDMSG, user record successfully added
%VMSINSTAL-I-ACCOUNT, This installation updates an ACCOUNT named MUASNET.
%UAF-I-MDFYMSG, user record(s) updated
%VMSINSTAL-I-ACCOUNT, This installation updates an ACCOUNT named MUASNET.
%UAF-I-MDFYMSG, user record(s) updated
%VMSINSTAL-I-ACCOUNT, This installation updates an ACCOUNT named MUASNET.
%UAF-I-MDFYMSG, user record(s) updated
%VMSINSTAL-I-ACCOUNT, This installation updates an ACCOUNT named MUASNET.
%UAF-I-MDFYMSG, user record(s) updated
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[MUAS$SERVER_000].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[MUAS$SERVER_000.DMP].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[MUAS$SERVER_000.MSG].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[MUAS$SERVER_000.TMP].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[MUAS$SERVER_000.WRK].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.TEST].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.PRINT].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.DL].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.ENGLISH].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.JAPANESE].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.DANISH].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.DUTCH].
```

```
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.FRENCH].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.GERMAN].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.ITALIAN].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.SPANISH].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.SWEDISH].

      +---------------------------------------------------------------------+
      | When the installation completes, remember to modify your system     |
      | startup procedure to execute SYS$STARTUP:A1MAIL$STARTUP.COM,        |
      | AFTER the network has been started up.                              |
      |                                                                     |
      | Note that if you are installing on a cluster, this startup procedure|
      | should, in general, be executed on EVERY node in the cluster.  Read |
      | the release notes for more information.                             |
      +---------------------------------------------------------------------+
```

2.2.4 インストレーション検証プロシージャからの出力

IVP を実行するように選択した場合 IVP はここで実行されます。 IVP が問題なく実行されると次のようなメッセージが表示されます (ノード名およびユーザ名は異なります)。

```
Starting IVP for DEC MAILworks/Japanese V1.3-AJ.

Starting server test.

Starting user agent test; VT interface.

NOTE: This IVP will change the current user's
      MailWorks user profile as follows:

      AUTO_PURGE                    is set to No
      CORRELATE                     is set to Yes

Setting profile attributes.

Mailing message to self.

Pausing 19 seconds for message delivery.

新しい DEC MAILworks メッセージが TONBO に SYSTEM (SYSTEM@AM@TONBO) から届きました。(13-JUN-1995 10:55:55.53)

新しい DEC MAILworks 配信/受信通知が TONBO に POSTMASTER (@TONBO.MUAS) から届きました。(13-JUN-1995 10:55:58.68)

Generating IVP output file.

Checking IVP output file.

未開封の 日本語 DEC MAILworks メッセージが 2 通あります。

DEC MAILworks/Japanese V1.3-AJ IVP completed successfully.
```

2.2.5 インストレーション・プロシージャの終了

すべてのインストレーション・プロシージャが終了すると，次のメッセージが表示されます。

```
Installation of A1MAIL Version 1.3A completed at hh:mm
VMSINSTAL procedure done at hh:mm
```

ここで特権付きアカウントからログ・アウトできます。

VMSINSTAL により，プロセス・シンボル・テーブル中の項目はインストレーション中に削除あるいは変更されます。したがって，システム管理者のアカウントを引き続き使用してこれらのシンボルを復元したい場合には，一度ログ・アウトしてから再度ログ・インしてください。

2.3 エラーの回復

インストレーション中や IVP の実行中にエラーが発生すると， VMSINSTAL は不成功メッセージを表示します。

インストレーションが失敗した場合には次のメッセージが表示されます。

```
%VMSINSTAL-E-INSFAIL, The installation of A1MAILJA V13 has failed.
```

IVP が失敗した場合には次のメッセージが表示されます。

```
DEC MAILworks/Japanese V1.3-AJ IVP FAILED.
%VMSINSTAL-E-IVPFAIL, The IVP for A1MAILJA V13 has failed.
```

次のような条件が 1 つでもあれば，インストレーション中にエラーが発生する可能性があります。

- オペレーティング・システムのバージョンが不適当である。
- プロダクトが正しくライセンス登録されていない。
- MUAS$SERVER_nnn の起動に失敗した場合， IVP は失敗します。

3

インストレーション終了後の作業

日本語 MailWorks をインストールした後，次の作業を行ってください。

- システム・スタートアップを編集して @SYS$STARTUP:A1MAIL$STARTUP を入れます。
- ユーザ・アカウント・クォータを設定します。
- 必要に応じてファイルをリネームあるいは修正します。
- サーバを追加します。
- ワークステーション・ユーザがディレクトリ・サービス (DDS) へアクセスできるようにします。
- システムの設定を変更します。異なる設定に必要なファイルが一覧表示されます。
- TCP/IP を設定します。

3.1 システム・スタートアップの編集

様々な構成要素をシステム・スタートアップで編集する順序は大変重要です。日本語 MailWorks を間違いなく起動するためには，次の構成要素をその通りの順番で入力してください。

1. DECnet
2. PATHWORKS および MRGATE。どちらを先に実行してもかまいません。
3. 日本語 MailWorks

システム・スタートアップ・ファイルをいったん変更すると，DECnet が開始され，ネットワークが使用可能になった後に，SYS$STARTUP:A1MAIL$STARTUP.COM を実行しなければなりません。

3.2 ユーザ・アカウント条件の設定

日本語 MailWorks を使用するには，システム上のユーザ・アカウントに一定のクォータが必要です。表 3–1 に必要なユーザ・アカウントのクォータを要約します。DECwindows インタフェースで外部エディタを使用するために，PRCLM が必要です。

表 3–1　ユーザ・アカウント・クォータ

アカウント・クォータ	値
FILLM	100
PRCLM	3
BYTLM	20,000
	60,000（TeamLinks を使用する場合）
ENQLM	100

ユーザ・アカウント・クォータはファイル SYSUAF.DAT に保存されます。ユーザ・アカウント・クォータを確認および変更する場合には，Authorize ユーティリティを使用します。まず，ディレクトリを SYS$SYSTEM に設定してから AUTHORIZE を実行してください。

```
$ SET DEFAULT SYS$SYSTEM
$ RUN AUTHORIZE
UAF>
```

ある特定のアカウントを調べるには，AUTHORIZE プロンプト（UAF > ）で SHOW コマンドとアカウント名を入力します。次に例を示します。

```
UAF> SHOW SMITH
```

【ユーザ・アカウント・クウォータの変更】
クォータを変更するには UAF > プロンプトで MODIFY コマンドを入力します。形式は次のようになります。

MODIFY account-name /quota-name=nnnn

この例では，SMITH アカウントの FILLM クォータを変更してユーティリティを終了しています。

```
UAF> MODIFY SMITH /FILLM=100
UAF> EXIT
```

ユーティリティ終了後に，システムにより変更が行なわれたかどうかを示すメッセージが表示されます。ユーザが新しいクォータを有効にするには，一度ログアウトしてから再度ログインしなければなりません。

アカウント・クォータの変更の詳細については，『*OpenVMS Authorize Utility Manual*』を参照してください。

3.3 ファイル名の変更

インストレーションがアップグレードの場合，日本語 MailWorks は現在のシステムの言語固有ディレクトリで次のファイルを探します。

- A1MADDR.DAT
- A1MDIST.TXT
- A1MDWRH.TXT
- A1MIOSRH.TXT
- A1MKEYWD.DAT
- A1MREAD.TXT
- A1MSHOW.TXT
- A1MAIL$PROFILE_TEMPLATE_ALL–IN–1.DAT
- A1MAIL$PROFILE_TEMPLATE_DEFAULT.DAT
- A1MAIL$PROFILE_TEMPLATE_VMSMAIL.DAT

現在のシステムの言語固有ディレクトリに拡張子.TXT をもつファイルが見つかった場合，新しくインストールしたキットからの同じファイルは拡張子.NEW に名前が変更されます。言語固有ディレクトリに拡張子.TXT をもつファイルが見つからない場合，新しくインストールしたキットからのこれらのファイルは拡張子.TXT を持つ名前になります。したがって，既存のシステム上のバージョンではなく，新しくインストールしたキットのファイル・バージョンを使用したい場合にだけ，拡張子.NEW のついているファイルを拡張子.TXT に変更してください。

同様に，現在のシステムの言語固有ディレクトリに拡張子.DAT を持つファイルは新しくインストールしたキットからの同じファイルがあった場合，拡張子.OLD に名前が変更されます。したがって，現在のシステム上のバージョンを使用したい場合にだけ，拡張子.OLD のついているファイルを拡張子.DAT に変更しなくてはなりません。

システム・テンプレート・ファイルが現在のテンプレート・ファイルのままでよい場合，カスタマイズされたいかなるテンプレート・ファイルをアップグレード・インストレーション後にリネームする必要はありません。インストレーション中に提供されたテンプレート・ファイルを使用したい場合のみ，テンプレート・ファイルをリネームする必要があります。

3.4 ファイルの変更

SYS$STARTUP:A1MAIL$STARTUP.COM がシステムにある場合，このファイルは SYS$STARTUP:A1MAIL$STARTUP.OLD と名称が変更されます。日本語 MailWorks V1.3A では，新しいスタートアップ・コマンド・プロシージャが提供されています。古いスタートアップ・コマンド・プロシージャを特別にカスタマイズし

ている場合，新しいスタートアップ・コマンド・プロシージャも変更する必要があります。

インストレーションがアップグレードの場合，インストレーション・プロシージャによる現在あるデータタイプと変換表 MUAS$TABLE_SHARE.MAR の上書きはありません。新しいデータタイプと変換表ファイルは， MUAS$TABLE_SHARE.NEW というファイル名になります。

3.5 サーバの追加

インストレーション中に，さらに MUAS サーバの設定を行うかどうかを聞いてきます。以前のバージョンでは，クラスタ内の 1 つのノードにつき 1 つのメール・サーバしか，許されませんでした。これは，ノードを越えて，あるいは VAX または Alpha クラスタを越えて，かなりの量のメールを受信したときに，日本語 MailWorks と Message Router とのボトルネックを防ぐためでした。

現在では，メッセージを取得し，それを配布するために，さらにサーバを追加する設定を行うことができます。ただし，これらの追加されたサーバは，クライアントからの接続は受け付けません。日本語 MailWorks と Message Router とのインタフェースによるスループットの問題に直面した場合のみ，複数のサーバの使用を考慮するようにしてください。たとえば，メール・サーバの中に長いメッセージ・キューが存在する場合，または，ローカルでない，かなりの割合のオフ・ノードのメールがある場合に，スループットの問題に直面する可能性があります。

サーバを追加する際の設定については，『*MailWorks for OpenVMS System Manager's Guide*』を参照してください。

3.6 ディレクトリ・サービス・アドレスへのアクセス

DECwindows ワークステーションのユーザが，ディレクトリ・サービス (DDS) にアクセスできるように， SYSTEM スタートアップ・ファイル (A1MAIL$STARTUP.COM) に次のコマンドを入力します。

```
$ @SYS$MANAGER:MB$CONTROL START=MS
```

3.7 システム設定の変更

ここで，設定を変更する必要があるかも知れません。本節では，本リリースで提供されるさまざまな日本語 MailWorks と Transfer Services(TS) の設定および日本語 MailWorks と DDS の設定について述べます。内容は，以下の通りです。

- 日本語 MailWorks (TS なし)
- 日本語 MailWorks とローカル TS

- 日本語 MailWorks とリモート TS
- 日本語 MailWorks (DDS なし)
- 日本語 MailWorks とローカル DDS
- 日本語 MailWorks と DDS コンセントレータ
- 日本語 MailWorks と DDS ディストリビュータ

『*MailWorks for OpenVMS System Manager's Guide*』には，どの設定が要求に合致するかを決めるのに役立つ情報が載っています。

3.7.1 設定情報に関する用語集

日本語 MailWorks V1.3A では，DDS をインストールするための新しい設定を提供しています。これらの設定については，以降の節で扱います。以下の用語は，さまざまな設定を説明するために用いられます。

- 日本語 MailWorks ターゲット・ノード: 日本語 MailWorks for OpenVMS がインストールされ，設定されているノード。
- 分散ディレクトリ・サービス (DDS): メール・ネットワークにおける加入者のリストを維持します。このリストには，ネットワーク上の加入者の名前とアドレスの現在のレコードが含まれます。このディレクトリ・サービスは，情報の分散複写データベースを提供します。 DDS は， Message Router の構成要素です。
- リモート DDS: DDS ターゲット・ノードに DDS がインストールおよび設定されていることを表わします。日本語 MailWorks ターゲット・ノードと DDS ターゲット・ノードは，同じノードあるいは同じクラスタではありません。
- ローカル DDS: 日本語 MailWorks for OpenVMS がインストールおよび設定されているノードと同じノードに DDS がインストールおよび設定されていることを表わします。
- DDS なし: DDS アクセスができないように日本語 MailWorks for OpenVMS が設定されていることを表わします。アドレスは， DDS から取り出したり， DDS を使用して検証できません。
- DDS コンセントレータ: リモート DDS アクセスの設定です。 DDS ターゲット・ノード上で，日本語 MailWorks ターゲット・ノードに対する日本語 MailWorks for OpenVMS DS サーバおよび DDS がインストールされ設定されています。さらに，日本語 MailWorks は， DDS ターゲット・ノード上に設定される必要があります。
- DDS ディストリビュータ: リモート DDS アクセスの設定です。日本語 MailWorks for OpenVMS DS サーバが日本語 MailWorks ターゲット・ノードにインストールおよび設定されていて， DDS は， DDS ターゲット・ノード上にインストールおよび設定されています。日本語 MailWorks ターゲット・ノードおよび DDS ターゲット・ノードは，同じノードあるいは同じクラスタではありません。

- DDS ターゲット・ノード: DDS がインストールおよび設定されているノードのことです。
- ローカル TS: 日本語 MailWorks がインストールおよび設定されているノードと同じノードに TS がインストールおよび設定されていることを表わします。
- TS なし: TS が使用できないように日本語 MailWorks for OpenVMS が設定されていることを表わします。メッセージの送信および配信は，ローカルにのみできます。
- リモート TS: TS が TS ターゲット・ノード上にインストールおよび設定されていることを表わします。日本語 MailWorks ターゲット・ノードおよび TS ターゲット・ノードは，同じノードあるいは同じクラスタにはありません。
- Transfer Service (TS): Transfer Service は， Message Router の中の構成要素です。
- TS ターゲット・ノード: TS がインストールおよび設定されているノードのことです。

3.8 日本語 MailWorks for OpenVMS と TS の設定

本節では，さまざまな TS 設定を使用するために日本語 MailWorks for OpenVMS を設定する方法について，詳細に説明します。

3.8.1 日本語 MailWorks for OpenVMS(TS なし) の設定

【要求事項】
TS が設定されていない場合は，要求事項はありません。

TS なしで日本語 MailWorks for OpenVMS を設定する方法について，以下に述べます。

1. 以下のサーバ属性が正しく設定されているかどうか確認してください。これらの属性の変更方法については，『*MailWorks for OpenVMS System Manager's Guide*』を参照してください。
   - MR_MAILBOX を消去します。
   - メールボックスを含まないように LOCAL_ROUTING_ADDRESS を設定します。
   - USE_MR を NOUSE_MR に設定します。
   - TIME_OFFSET を "+0000"に設定します。
2. MUAS サーバを停止および再起動します。 MUAS サーバを停止および再起動する方法については，『*MailWorks for OpenVMS System Manager's Guide*』を参照してください。

3.8.2 日本語 MailWorks for OpenVMS とローカル TS の設定

【要求事項】
少なくとも，Message Router V3.3 が日本語 MailWorks ターゲット・ノード上にインストールおよび設定されていなければなりません。ローカル TS は，日本語 MailWorks for OpenVMS AXP に対しては，正しい設定ではありません。正しい設定オプションについては，第 3.8.1 項あるいは第 3.8.3 項を参照してください。

日本語 MailWorks for OpenVMS VAX システムをローカル TS に設定する方法を以下に述べます。

1. Message Router が日本語 MailWorks ターゲット・ノード上にインストールおよび設定されているかどうかを確認してください。
2. メールボックスが存在しない場合は，これを作成する必要があります。コマンド・プロシージャ A1MAIL$LIBRARY:X400MAN$CREATE_MAILBOX.COM を使用して，メールボックスを作成してください。なお，このコマンド・プロシージャに対して，メールボックス名を指定する必要があります。プロンプトに対してメールボックス名を指定しなかった場合は，メールボックス名として AM が使用されます。
3. 以下のサーバ属性が正しく設定されているかどうか確認してください。これらの属性を変更する方法については，『*MailWorks for OpenVMS System Manager's Guide*』を参照してください。
   - MR_MAILBOX を設定してください。
   - LOCAL_ROUTING_ADDRESS を設定してください。
   - USE_MR を BASIC あるいは ALWAYS に設定してください。
   - TIME_OFFSET を設定してください。
4. MUAS サーバを停止および再起動してください。 MUAS サーバを停止および再起動する方法については，『*MailWorks for OpenVMS System Manager's Guide*』を参照してください。

3.8.3 日本語 MailWorks for OpenVMS とリモート TS の設定

【要求事項】
少なくとも，Message Router V3.3A が日本語 MailWorks for OpenVMS VAX の TS ターゲット・ノード上にインストールおよび設定されていなければなりません。

日本語 MailWorks for OpenVMS をリモート TS 用に設定する方法を以下に述べます。

1. Message Router の正しいバージョンが TS ターゲット・ノード上にインストールおよび設定されているかどうか確認してください。日本語 MailWorks for OpenVMS AXP については，少なくとも Message Router V3.3A が TS ターゲット・ノード上にインストールおよび設定されていることを確認してください。

2. 日本語 MailWorks for OpenVMS VAX では，日本語 MailWorks ターゲット・ノード上の SYS$COMMON:[SYSLIB]の中にあるイメージ MRAPPSHAR.EXE が，TS ターゲット・ノード上にインストールされているイメージと同一であることを確認してください。日本語 MailWorks for OpenVMS AXP では，イメージ MRAXPSHAR.EXE が，日本語 MailWorks ターゲット・ノード上の SYS$COMMON:[SYSLIB]の中にあることを確認してください。ファイルが存在しない場合は，正しいファイルを MUAS$TOOLS から指定されたディレクトリにコピーしてください。これらに関する詳細は，第 3.10 節を参照してください。

3. 日本語 MailWorks for OpenVMS AXP に関しては，イメージ MRAXPMSG.EXE が日本語 MailWorks ターゲット・ノード上の SYS$COMMON:[SYSMSG]に存在するかどうかを確認してください。ファイルが存在しない場合は，正しいファイルを MUAS$TOOLS から指定されたディレクトリにコピーしてください。

4. メールボックスが TS ターゲット・ノードに存在しない場合は，これを作成する必要があります。以下の例は，TS ターゲット・ノード上にメールボックスを作成する方法を示しています。

```
$ MCR MRMAN
MRM> ADD mbox /SUPPRESS_DELIVERY_REPORTS -
_MRM> /PROBES_RELAYED /COMPLETE_MESSAGES -
_MRM> /IGNORE_SENDER /SERVICE_MESSAGES -
_MRM> /PASSWORD=password
```

注意

パスワードは，X4MANAGER を使用して設定したパスワードと合致していなければなりません。また，パスワードは 8 から 31 文字の間でなければなりません。メールボックスのパスワードをチェックしたい場合は，MRMAN SEND/IDENT を使用してください。メールボックスとパスワードの長さの合計は，24 文字を越えてはなりません。

このコマンドに関する詳細については，Message Router のシステム管理に関するマニュアルを参照してください。

5. 以下のサーバ属性が正しく設定されているか確認してください。サーバ属性の変更については，『*MailWorks for OpenVMS System Manager's Guide*』を参照してください。

   - MR_MAILBOX を設定してください (前段階で使用した mbox に設定してください)。
   - LOCAL_ROUTING_ADDRESS を設定してください。
   - USE_MR を BASIC あるいは ALWAYS に設定してください。
   - TIME_OFFSET を設定してください。
   - MR_NODE を設定してください (TS ターゲット・ノードに設定してください)。

- MR_PASSWORD を設定してください (前段階で使用したパスワードに設定してください)。
- MR_POLL_INTERVAL を設定してください (150 に設定することをおすすめします)。

6. MUAS サーバを停止および再起動してください。停止および再起動の方法については，『*MailWorks for OpenVMS System Manager's Guide*』を参照してください。

3.9 日本語 MailWorks for OpenVMS と DDS の設定

本節では，さまざまな DDS の設定を使用するために，日本語 MailWorks for OpenVMS を設定する方法について，詳しく説明します。

3.9.1 日本語 MailWorks for OpenVMS(DDS なし) の設定

【要求事項】
DDS が設定されていない場合は，要求事項はありません。

DDS がローカル・システムに設定されて使用可能になっていない限り，DDS はいかなるクライアントに対しても使用可能になりません。リモート DDS がすでに設定されている場合は，以下の説明に従って，日本語 MailWorks for OpenVMS (DDS なし) システムを設定します。

1. DDS スタートアップ・コマンド・プロシージャ DDS$STARTUP.COM がすでに実行されていないか確認してください。もし実行されている場合は，論理名の割り当てを解除する必要があります。
2. 以下の DS サーバ属性が正しく設定されているかどうか確認してください。属性の変更については，『*MailWorks for OpenVMS System Manager's Guide*』を参照してください。
   - DISABLE DS
3. 接続サーバを停止および再起動するか，あるいは DS サーバを停止してください。接続サーバに関する詳細については，『*MailWorks for OpenVMS System Manager's Guide*』を参照してください。

3.9.2 日本語 MailWorks for OpenVMS VAX とローカル DDS の設定

【要求事項】
少なくとも，日本語 MailWorks ターゲット・ノードに Message Router V3.3A がインストールおよび設定されていなければなりません。

日本語 MailWorks for OpenVMS AXP では，ローカル DDS は正しい設定ではありません。正しい設定オプションに関しては，第 3.9.1 項, 第 3.9.3 項あるいは第 3.9.4 項を参照してください。

ローカル DDS を使用するために日本語 MailWorks for OpenVMS VAX システムを設定する方法を以下に述べます。

1. DDS スタートアップ・コマンド・プロシージャ DDS$STARTUP.COM がすでに実行されていないか確認してください。もし実行されている場合は，論理名の割り当てを解除する必要があります。
2. 以下の DS サーバ属性が正しく設定されているかどうか確認してください。属性の変更については，『*MailWorks for OpenVMS System Manager's Guide*』を参照してください。
   - NODS_NODE を設定してください。
   - DS_SERVERS を 1 以上に設定してください。
   - DS_TIMEOUT を設定してください。
3. 接続サーバを停止および再起動するか，あるいは DS サーバを停止および再起動してください。接続サーバに関する詳細については，『*MailWorks for OpenVMS System Manager's Guide*』を参照してください。

3.9.3 日本語 MailWorks for OpenVMS と DDS コンセントレータの設定

【要求事項】
少なくとも，Message Router V3.3 が日本語 MailWorks for OpenVMS VAX の DDS ターゲット・ノードにインストールおよび設定されていることが必要です。

少なくとも，Message Router V3.3A が日本語 MailWorks for OpenVMS AXP の DDS ターゲット・ノードにインストールおよび設定されていることが必要です。

日本語 MailWorks ターゲット・ノードにインストールおよび設定されているのと同じバージョンの日本語 MailWorks for OpenVMS が DDS ターゲット・ノードにインストールおよび設定されていることが必要です。

DDS コンセントレータを使用するために日本語 MailWorks for OpenVMS システムを設定する方法を以下に述べます。

1. 以下の DS サーバ属性が正しく日本語 MailWorks ターゲット・ノードに設定されているかどうか確認してください。詳細については，『*MailWorks for OpenVMS System Manager's Guide*』を参照してください。
   - DS_NODE を DDS ターゲット・ノードに設定してください。
   - DS_PASSWORD を設定してください。
   - DS_SERVERS を 1 以上に設定してください。

- DS_TIMEOUT を設定してください。

2. 以下の DS サーバ属性が DDS ターゲット・ノードに正しく設定されているかどうかを確認してください。詳細については，『*MailWorks for OpenVMS System Manager's Guide*』を参照してください。
   - 日本語 MailWorks ターゲット・ノードおよび日本語 MailWorks ターゲット・ノードに設定した DS_PASSWORD を用いて REGISTERED_NODE を追加してください。
   - DS_SERVERS を 1 以上に設定してください。
   - DS_TIMEOUT を設定してください。
3. DDS ターゲット・ノード上の接続サーバを停止および再起動してください。接続サーバに関する詳細については，『*MailWorks for OpenVMS System Manager's Guide*』を参照してください。
4. DDS ターゲット・ノード上の接続サーバが正しく起動された後に，日本語 MailWorks ターゲット・ノード上の接続サーバを停止および再起動してください。

3.9.4 日本語 MailWorks for OpenVMS と DDS ディストリビュータの設定

【要求事項】
少なくとも，Message Router V3.3A が日本語 MailWorks for OpenVMS VAX および日本語 MailWorks for OpenVMS AXP の DDS ターゲット・ノードにインストールおよび設定されていることが必要です。

日本語 MailWorks for OpenVMS と DDS ディストリビュータに設定する方法について以下に述べます。

1. 少なくとも，Message Router V3.3A が DDS ターゲット・ノードにインストールおよび設定されていることを確認してください。
2. リモート・クライアント・アクセスを可能にするために，V3.3A の『*Message Router Configuration Guide*』に従って，DDS ターゲット・ノード上で Message Router の設定を行ってください。リモート DDS アクセス・サポートに特有な設定の問い合わせは以下の通りです。

   ```
   Do you want to allow remote Directory Service access?
   How many query servers do you want?
   What is the maximum number of network links you want to permit per listener?
   ```

   出発点として，2 個の問い合わせサーバと，10 個の DECnet リンクをおすすめします。
3. 日本語 MailWorks for OpenVMS VAX については，イメージ DDS$RMT_VAX.EXE が日本語 MailWorks ターゲット・ノード上の SYS$COMMON:[SYSLIB]に存在しているかどうかを確認してください。日本語 MailWorks for OpenVMS AXP については，イメージ DDS$RMT_ALPHA.EXE

が日本語 MailWorks ターゲット・ノード上の SYS$COMMON:[SYSLIB]に存在しているかどうかを確認してください。イメージが存在しない場合は，正しいファイルを MUAS$TOOLS から指定されたディレクトリへコピーしてください。

4. 日本語 MailWorks for OpenVMS VAX については，イメージ DDS$MSG_VAX.EXE が日本語 MailWorks ターゲット・ノード上の SYS$COMMON:[SYSMSG]に存在しているかどうかを確認してください。日本語 MailWorks for OpenVMS AXP については，イメージ DDS$MSG_ALPHA.EXE が日本語 MailWorks ターゲット・ノード上の SYS$COMMON:[SYSMSG]に存在しているかどうかを確認してください。イメージが存在しない場合は，正しいファイルを MUAS$TOOLS から指定されたディレクトリへコピーしてください。
5. ファイル DDS$STARTUP.COM が日本語 MailWorks ターゲット・ノード上の SYS$COMMON:[SYS$STARTUP]に存在するかどうかを確認してください。ファイルが存在しない場合は，日本語 MailWorks for OpenVMS のキットのセーブセット D（A1MAILJA013.D）から，指定されたディレクトリにファイルをコピーしてください。
6. DDS ターゲット・ノードが日本語 MailWorks ターゲット・ノード上の DECnet に登録されているかどうかを確認してください。
7. 日本語 MailWorks ターゲット・ノードが DDS ターゲット・ノード上の DECnet に登録されているかどうかを確認してください。
8. DDS スタートアップ・コマンド・プロシージャ DDS$STARTUP.COM が日本語 MailWorks ターゲット・ノード上で実行されているか確認してください。

   このコマンド・プロシージャは，2 つのパラメータ， "DDS Server Node"および "DDS Server System Node Number"を必要とします。 "DDS Server Node"は DDS が置かれるノード名です。 "DDS Server System Node Number"は，DDS ターゲット・ノード上で以下のコマンドを実行することにより決定することができます。

   ```
   $ MCR MBMAN SHOW DDS CONFIG /ALL
   ```

   以下のような行を探してください。

   ```
   System node number              : 1234
   ```

9. 以下が設定されているかどうかを確認してください。
   - NODS_NODE
   - DS_SERVERS
   - DS_TIMEOUT
10. 接続サーバを停止および再起動するか，DS サーバを停止および再起動してください。接続サーバに関する詳細については，『*MailWorks for OpenVMS System Manager's Guide*』を参照してください。

3.10 異なる設定に必要なファイル

日本語 MailWorks for OpenVMS VAX をリモート TS とともに設定しようとしている場合は，日本語 MailWorks for OpenVMS VAX ターゲット・ノード上に以下のファイルが必要です。

```
SYS$COMMON:[SYSLIB]MRAPPSHAR.EXE
SYS$COMMON:[SYSMSG]MRAPPMSG.EXE
```

日本語 MailWorks for OpenVMS AXP をリモート TS とともに設定しようとしている場合は，日本語 MailWorks for OpenVMS AXP ターゲット・ノード上に以下のファイルが必要です。

```
SYS$COMMON:[SYSLIB]MRAXPSHAR.EXE
SYS$COMMON:[SYSMSG]MRAXPMSG.EXE
```

日本語 MailWorks for OpenVMS VAX をリモート DDS とともに設定しようとしている場合は，日本語 MailWorks for OpenVMS VAX ターゲット・ノード上に以下のファイルが必要です。

```
SYS$COMMON:[SYSLIB]DDS$RMT_VAX.EXE
SYS$COMMON:[SYSMSG]DDS$MSG_VAX.EXE
```

日本語 MailWorks for OpenVMS AXP をリモート DDS とともに設定しようとしている場合は，日本語 MailWorks for OpenVMS AXP ターゲット・ノード上に以下のファイルが必要です。

```
SYS$COMMON:[SYSLIB]DDS$RMT_ALPHA.EXE
SYS$COMMON:[SYSMSG]DDS$MSG_ALPHA.EXE
```

ファイルがシステム領域にない場合には，これらのファイルをを MUAS$TOOLS 領域から適当なシステム領域にコピーしてください。

3.11 OpenVMS 上での TCP/IP トランスポート・サービスの設定

TCP/IP を使用して日本語 MailWorks を実行するには，2 ポート必要です。 1 ポートは接続サーバが使用し，もう 1 つは MUAS サーバが使用します。日本語 MailWorks の TCP/IP トランスポートを設定するには，特権アカウントで以下の作業を行ってください。

1. 日本語 MailWorks スタートアップ・ファイルを編集してください。
   - OpenVMS VAX では， SYS$STARTUP:A1MAIL$STARTUP.COM を編集して，コマンド・ラインの THEN 部分を変更してください。

```
IF FILE .NES. ""
THEN
   DEFINE/SYSTEM/SUPERVISOR_MODE A1MAIL$CONNECT_TRANSPORTS -
   "DECNET:[0,TASKNAME=A1M$CONNECT]","DSL:[61]"
```

THEN 以下を，次のように変更してください。

```
THEN
   DEFINE/SYSTEM/SUPERVISOR_MODE A1MAIL$CONNECT_TRANSPORTS -
   "DECNET:[0,TASKNAME=A1M$CONNECT]","DSL:[61]","TCPIP:[6161]"
```

- OpenVMS AXP では， SYS$STARTUP:A1MAIL$STARTUP.COM を編集して，コマンド・ラインの ELSE 部分を変更してください。

```
ELSE
   DEFINE/SYSTEM/SUPERVISOR_MODE A1MAIL$CONNECT_TRANSPORTS -
   "DECNET:[0,TASKNAME=A1M$CONNECT]"
```

ELSE 以下を，次のように変更してください。

```
ELSE
   DEFINE/SYSTEM/SUPERVISOR_MODE A1MAIL$CONNECT_TRANSPORTS -
   "DECNET:[0,TASKNAME=A1M$CONNECT]","TCPIP:[6161]"
```

エディタを終了して，次のステップに進んでください。

2. X4MANAGER ユーティリティを使用して， MAIL_SERVER 設定ファイルを編集してください。

```
X4MAN.MAIL> MANAGE MAIL_SERVER
X4MAN.MAIL> EDIT
```

以下に示すような行を変更してください。

```
  SET TRANSPORT_LIST  "DECNET:[0,TASKNAME=A1M$MUAS]"
```

以下のように変更してください。

```
  SET TRANSPORT_LIST  "DECNET:[0,TASKNAME=A1M$MUAS]","TCPIP:[8484]"
```

ファイルを保存してエディタを終了してください。次に， MUAS サーバを停止および再起動してください。

```
X4MAN.MAIL> STOP/RESTART
X4MAN.MAIL> EXIT
X4MAN> EXIT
```

ノードに固有なスタートアップ・ファイルがある場合は，ここで述べたステップに従って編集しなければなりません。

3. X4MANAGER ユーティリティを使用して，接続サーバを停止してください。

```
X4MAN.MAIL> MANAGE REMOTE
X4MAN.REMOTE> STOP
```

4. 日本語 MailWorks を再起動してください。

```
$ @SYS$STARTUP:A1MAIL$STARTUP.COM
```

3.12 問題点の通知

本ソフトウェアについては，日本 DEC 所定のソフトウェア保証基準に定められた保証が提供されますので，その内容にしたがった処置を取ってください。

なお，ご不明な点につきましては，日本 DEC の各支店/営業所にお問い合わせください。

A

日本語 MailWorks のインストレーション例

本付録では，日本語 MailWorks for OpenVMS のインストレーション例を示します。 1 番目の例は，日本語 MailWorks を新規に VAX システムにインストールした例です。 2 番目の例は，日本語 MailWorks の古いバージョンが VAX システム上にインストールされていて，これをアップグレードした例です。 3 番目の例は，日本語 MailWorks を Alpha システム上に新規にインストールした例です。

A.1 新規インストレーション例

本節では，日本語 MailWorks がまだインストールされていない VAX システム上に新規にインストールした例を示します。

```
$ @SYS$UPDATE:VMSINSTAL A1MAILJA DISK$KITS:[KITS]

        OpenVMS VAX Software Product Installation Procedure V6.1

It is 13-JUN-1995 at 10:34.

Enter a question mark (?) at any time for help.

* Are you satisfied with the backup of your system disk [YES]?

The following products will be processed:

  A1MAILJA V1.3

Beginning installation of A1MAILJA V1.3 at 10:34

%VMSINSTAL-I-RESTORE, Restoring product save set A ...
%VMSINSTAL-I-RELMOVED, Product's release notes have been moved to SYS$HELP.

    +-------------------------------------------------+
    | Installing MailWorks/Japanese for OpenVMS V1.3-AJ |
    |               X.400 MAIL product                |
    +-------------------------------------------------+

* Do you want to purge files replaced by this installation [YES]?
* Do you want to run the IVP after the installation [YES]?

        The following menu lists all the choices available through
        this installation.  The server must have been installed on
        the system previously, or you must choose it now.

        At this time, enter the components that you wish to install.
        Use a comma-separated list (i.e., "1,2").

        The installation guide has more details on these various
        components.
```

```
        1) MailWorks/Japanese Server for OpenVMS
        2) MailWorks/Japanese for OpenVMS DECwindows
        3) MailWorks/Japanese for OpenVMS Video Terminals
        4) All of the above

    CAUTION:  If this is an upgrade from a previous version, the clients
              must be upgraded also.
* Choose installation options [4]: 1,3
* MailWorks/Japanese Library disk  [SYS$SYSDEVICE]:

Checking license for server

        Product:      ALLIN1-MAIL-SERVER
        Producer:     DEC
        Version:      1.1
        Release Date: 19-APR-1991

* Does this product have an authorization key registered and loaded? YES
* MUAS common disk [SYS$SYSDEVICE]:

        To ensure that the MailWorks/Japanese server runs in the
        proper environment, this installation procedure will create
        an account for the server.  This account, MUAS$SERVER, has
        no special privileges and it is not possible to log into
        this account.

        You must specify a unique UIC that is not a system UIC
        for this account to ensure proper security of the network.
        The password for this account will be generated. You do not need
        to know this password. It has been set as PRE-EXPIRED. If this
        scenerio violates your security policies, you may change it after
        the installation has finished via the VMS AUTHORIZE utility.

* UIC to be used for MUAS$SERVER account in format [ggg,mmm]: [57,1]

        To ensure that the MailWorks/Japanese server runs
        in the proper environment,  this installation
        procedure will create  an account for  the server.
        This account,  MUASNET,  has the privileges TMPMBX
        and NETMBX.   Only network logins are allowed into
        the MUASNET account.

        You must specify a unique user number for this
        account in  order to  ensure proper security  of
        the  network.   The password for this
        account will be generated. You do not need to know
        this  password.   If this  scenerio violates  your
        security  policies,  you may  change it  after the
        installation  has finished  via the  VMS AUTHORIZE
        utility.

* User number to be used for MUASNET account in format, mmm: 2


        The following menu lists all the choices available through
        this installation.

        At this time, enter the option that you wish to configure.
        Only a single value is allowed, (i.e., "1").

        The installation guide describes these options.
```

```
        1) Configure to use Local Message Router Transfer Service
        2) Do not configure to use Message Router Transfer Service
        3) Configure to use Remote Message Router Transfer Service
* Configure Message Router Transfer Service option [2]:
* Local routing address [AM@TONBO]:

        Remote Message Router Distributed Directory Services is
        a configurable option.

        An answer of YES indicates that Remote Message Router Distributed
        Directory Services will be configured.

        An answer of NO indicates that Remote Message Router Distributed
        Directory Services will not be configured.

* Configure Remote Message Router DDS [NO]?

        There will now be a dialogue to determine the MUAS system
        configuration.  You will be asked to specify the MUAS servers
        to be run on this node (and, for a cluster, other nodes).

        Servers are uniquely identified by a three-character name,
        typically composed only of numeric characters.

        You will be asked after each set if there are more servers
        to be configured.

        Use ^Z (CTRL-Z) to cancel an entry for a server node or
        server disk set.

* Node for server 000 [TONBO]:
* Disk for server 000 [SYS$SYSDEVICE]:

        MailWorks/Japanese system configuration is now complete.

        Note that if you want to alter the system configuration after
        installation, use the X4MANAGER utility as described in
        the MailWorks/Japanese System Manager's Guide.

Checking license for command line interface

        Product:      ALLIN1-MAIL-VT-CLIENT
        Producer:     DEC
        Version:      1.1
        Release Date: 19-Apr-1991

* Does this product have an authorization key registered and loaded? YES

  This is the end of the questions that are asked by this installation.
  The rest of the installation will take about 55 minutes
  on a MicroVax II class machine.
```

```
%VMSINSTAL-I-RESTORE, Restoring product save set B ...
%VMSINSTAL-I-RESTORE, Restoring product save set D ...
%VMSINSTAL-I-RESTORE, Restoring product save set E ...
%VMSINSTAL-I-ACCOUNT, This installation creates an ACCOUNT named MUAS$SERVER.
%UAF-I-ADDMSG, user record successfully added
%UAF-I-RDBADDMSGU, identifier MUAS$SERVER value [000057,000001] added to right
s database
%VMSINSTAL-I-ACCOUNT, This installation updates an ACCOUNT named MUAS$SERVER.
%UAF-I-MDFYMSG, user record(s) updated
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[MUAS$SERVER].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[MUAS$SERVER.COM].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[MUAS$SERVER.DB].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[MUAS$SERVER.TOOLS].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[MUAS$SERVER.WRK].
%VMSINSTAL-I-ACCOUNT, This installation adds an identifier named MUAS$PROFILE_
UPDATE.
%UAF-I-RDBADDMSG, identifier MUAS$PROFILE_UPDATE value %X80010024 added to rig
hts database
%VMSINSTAL-I-ACCOUNT, This installation creates an ACCOUNT named MUASNET.
%UAF-I-ADDMSG, user record successfully added
%VMSINSTAL-I-ACCOUNT, This installation updates an ACCOUNT named MUASNET.
%UAF-I-MDFYMSG, user record(s) updated
%VMSINSTAL-I-ACCOUNT, This installation updates an ACCOUNT named MUASNET.
%UAF-I-MDFYMSG, user record(s) updated
%VMSINSTAL-I-ACCOUNT, This installation updates an ACCOUNT named MUASNET.
%UAF-I-MDFYMSG, user record(s) updated
%VMSINSTAL-I-ACCOUNT, This installation updates an ACCOUNT named MUASNET.
%UAF-I-MDFYMSG, user record(s) updated
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[MUAS$SERVER_000].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[MUAS$SERVER_000.DMP].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[MUAS$SERVER_000.MSG].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[MUAS$SERVER_000.TMP].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[MUAS$SERVER_000.WRK].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.TEST].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.PRINT].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.DL].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.ENGLISH].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
```

```
:[A1MAIL$LIBRARY.JAPANESE].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.DANISH].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.DUTCH].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.FRENCH].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.GERMAN].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.ITALIAN].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.SPANISH].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.SWEDISH].

      +-------------------------------------------------------------------+
      | When the installation completes, remember to modify your system   |
      | startup procedure to execute SYS$STARTUP:A1MAIL$STARTUP.COM,      |
      | AFTER the network has been started up.                            |
      |                                                                   |
      | Note that if you are installing on a cluster, this startup procedure |
      | should, in general, be executed on EVERY node in the cluster.  Read |
      | the release notes for more information.                           |
      +-------------------------------------------------------------------+

Starting DEC MAILworks/Japanese for OpenVMS

V1.3-AJ
Job MUAS$NODE_CHECK (queue MUAS$BATCH_TONBO, entry 160) started on MUAS$BATCH_
TONBO
Job MUAS$TIDY (queue MUAS$BATCH, entry 162) started on MUAS$BATCH
%RUN-S-PROC_ID, identification of created process is 000000B6
Preparing to start MailWorks/Japanese IVP

V1.3-AJ

V1.3-AJ

Local user distribution list needs to be updated.

V1.3-AJ

Starting IVP for DEC MAILworks/Japanese V1.3-AJ.

Starting server test.


Starting user agent test; VT interface.

NOTE: This IVP will change the current user's
      MailWorks user profile as follows:

      AUTO_PURGE                  is set to No
      CORRELATE                   is set to Yes

Setting profile attributes.


Mailing message to self.

Pausing 19 seconds for message delivery.
```

```
新しい DEC MAILworks メッセージが TONBO に SYSTEM (SYSTEM@AM@TONBO) から届きま
した。(13-JUN-1995 10:55:55.53)

新しい DEC MAILworks 配信/受信通知が TONBO に POSTMASTER (@TONBO.MUAS) から届
きました。(13-JUN-1995 10:55:58.68)

Generating IVP output file.

Checking IVP output file.

未開封の 日本語 DEC MAILworks メッセージが 2 通あります。


DEC MAILworks/Japanese V1.3-AJ IVP completed successfully.

        Installation of A1MAILJA V1.3 completed at 10:56

        VMSINSTAL procedure done at 10:56

$
```

A.2 アップグレード・インストレーション例

本節では，すでに古いバージョンの日本語 MailWorks が VAX システム上にインストールされていて，これをアップグレードした時のインストレーション例を示します。このアップグレード・インストレーションは， DDIF および DECwindows をサポートしているシステム上で行なったものです。

```
$ @SYS$UPDATE:VMSINSTAL A1MAILJA DISK$KITS:[KITS]

        VAX/VMS Software Product Installation Procedure V5.5-2

It is 13-JUN-1995 at 11:19.

Enter a question mark (?) at any time for help.

%VMSINSTAL-W-ACTIVE, The following processes are still active:
        MUAS$SERVER_000
        A1MAIL$CONNECT
        MRLISTEN_8200
        A1M$DIREC_8202
        A1M$DIREC_8204
        A1M$DIREC_8206
        A1M$DIREC_8208
        A1M$DIREC_8210
        MRLOGGER
        MR$T_N_1
        DDS$055_i1
        DDS$055_lt1
        DDS$055_lt2
        MRG$GATEWAY
        DDS$LSTN_055_1
        MRLISTEN_8194
        A1MAIL$PRINT
* Do you want to continue anyway [NO]? YES
* Are you satisfied with the backup of your system disk [YES]? YES
```

```
The following products will be processed:

  A1MAILJA V1.3

       Beginning installation of A1MAILJA V1.3 at 11:20

%VMSINSTAL-I-RESTORE, Restoring product save set A ...
%VMSINSTAL-I-RELMOVED, Product's release notes have been moved to SYS$HELP.

    +-------------------------------------------------+
    | Installing MailWorks/Japanese for OpenVMS V1.3-AJ |
    |               X.400 MAIL product                |
    +-------------------------------------------------+

* Do you want to purge files replaced by this installation [YES]? YES
* Do you want to run the IVP after the installation [YES]? YES

       The following menu lists all the choices available through
       this installation.  The server must have been installed on
       the system previously, or you must choose it now.

       At this time, enter the components that you wish to install.
       Use a comma-separated list (i.e., "1,2").

       The installation guide has more details on these various
       components.

       1) MailWorks/Japanese Server for OpenVMS
       2) MailWorks/Japanese for OpenVMS DECwindows
       3) MailWorks/Japanese for OpenVMS Video Terminals
       4) All of the above

    CAUTION:  If this is an upgrade from a previous version, the clients
              must be upgraded also.
* Choose installation options [4]: 4

Checking license for server

       Product:      ALLIN1-MAIL-SERVER
       Producer:     DEC
       Version:      1.1
       Release Date: 19-APR-1991

* Does this product have an authorization key registered and loaded? YES

Checking license for command line interface

       Product:      ALLIN1-MAIL-VT-CLIENT
       Producer:     DEC
       Version:      1.1
       Release Date: 19-Apr-1991

* Does this product have an authorization key registered and loaded? YES

 Checking license for MailWorks/Japanese for OpenVMS DECwindows

       Product:      ALLIN1-MAIL-DW-CLIENT
       Producer:     DEC
       Version:      1.2
       Release Date: 23-MAY-1994

* Does this product have an authorization key registered and loaded? YES
```

```
  This is the end of the questions that are asked by this installation.
  The rest of the installation will take about 63 minutes
  on a MicroVax II class machine.

%VMSINSTAL-I-RESTORE, Restoring product save set B ...
%VMSINSTAL-I-RESTORE, Restoring product save set D ...
%VMSINSTAL-I-RESTORE, Restoring product save set E ...
Shutting down any MailWorks/Japanese servers on MEDAKA.
Job A1MAIL$STOP_SERVER (queue MUAS$BATCH_MEDAKA, entry 918) holding until 13-J
UN-1995 11:25
Checking for queued MailWorks/Japanese server-restart jobs.
Deleting restart-job #917 in queue MUAS$BATCH_MEDAKA

      +------------------------------------------------------------+
      | A new A1MAIL$CONNECT_STARTUP.COM has been provided as .NEW. |
      | Please merge new changes into the existing startup file.    |
      +------------------------------------------------------------+

%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.PRINT].

      +-------------------------------------------------------------------+
      | A new MUAS startup file has been provided as .NEW.  Please merge  |
      | into your existing MUAS$CMDS:MUAS$SERVER_SYSTEM_STARTUP.COM       |
      +-------------------------------------------------------------------+

%VMSINSTAL-I-RESTORE, Restoring product save set G ...
Starting DEC MAILworks/Japanese V1.2

V1.3-AJ
Job MUAS$NODE_CHECK (queue MUAS$BATCH_MEDAKA, entry 922) started on MUAS$BATCH
_MEDAKA
%RUN-S-PROC_ID, identification of created process is 000000C2
Preparing to start MailWorks/Japanese IVP

V1.3-AJ

V1.3-AJ

V1.3-AJ

Starting IVP for DEC MAILworks/Japanese V1.3-AJ.

Starting server test.


Starting user agent test; VT interface.

NOTE: This IVP will change the current user's
      MailWorks user profile as follows:

      AUTO_PURGE                  is set to No
      CORRELATE                   is set to Yes

Setting profile attributes.

Mailing message to self.

Pausing 19 seconds for message delivery.

新しい DEC MAILworks メッセージが MEDAKA に SYSTEM (SYSTEM@AM@MEDAKA) から届き
ました。(13-JUN-1995 11:48:26.39)
```

```
新しい DEC MAILworks 配信/受信通知が MEDAKA に POSTMASTER (@MEDAKA.MUAS) から
届きました。(13-JUN-1995 11:48:30.29)
Generating IVP output file.
Checking IVP output file.
未開封の 日本語 DEC MAILworks メッセージが 2 通あります。

Starting IVP for MailWorks for OpenVMS DECwindows
Window output to which node? (Press RETURN to cancel):
IVP for MailWorks for OpenVMS DECwindows cancelled

DEC MAILworks/Japanese V1.3-AJ IVP completed successfully.
        Installation of A1MAILJA V1.3 completed at 11:49
        VMSINSTAL procedure done at 11:50
$
```

A.3 Alphaシステムへのインストレーション例

本節では，OpenVMS AXP システムに日本語 MailWorks を新規にインストールした例を示します。

```
$ @SYS$UPDATE:VMSINSTAL A1MAILJA DISK$KITS:[KITS]
        OpenVMS AXP Software Product Installation Procedure V6.1

It is 13-JUN-1995 at 08:42.
Enter a question mark (?) at any time for help.
* Are you satisfied with the backup of your system disk [YES]? YES
The following products will be processed:
  A1MAILJA V1.3
        Beginning installation of A1MAILJA T1.3 at 08:42
%VMSINSTAL-I-RESTORE, Restoring product save set A ...
%VMSINSTAL-I-RELMOVED, Product's release notes have been moved to SYS$HELP.

    +-------------------------------------------------+
    | Installing MailWorks/Japanese for OpenVMS V1.3-AJ |
    |               X.400 MAIL product                |
    +-------------------------------------------------+

* Do you want to purge files replaced by this installation [YES]? YES
* Do you want to run the IVP after the installation [YES]? YES

        The following menu lists all the choices available through
        this installation.  The server must have been installed on
        the system previously, or you must choose it now.
```

```
        At this time, enter the components that you wish to install.
        Use a comma-separated list (i.e., "1,2").

        The installation guide has more details on these various
        components.

        1) MailWorks/Japanese Server for OpenVMS
        2) MailWorks/Japanese for OpenVMS Video Terminals
        3) All of the above

     CAUTION:  If this is an upgrade from a previous version, the clients
               must be upgraded also.
* Choose installation options [3]: 3
* MailWorks/Japanese Library disk  [SYS$SYSDEVICE]:

Checking license for server

        Product:      ALLIN1-MAIL-SERVER
        Producer:     DEC
        Version:      1.1
        Release Date: 19-APR-1991


* Does this product have an authorization key registered and loaded? YES
* MUAS common disk [SYS$SYSDEVICE]:

        To ensure that the MailWorks/Japanese server runs in the
        proper environment, this installation procedure will create
        an account for the server.  This account, MUAS$SERVER, has
        no special privileges and it is not possible to log into
        this account.

        You must specify a unique UIC that is not a system UIC
        for this account to ensure proper security of the network.
        The password for this account will be generated. You do not need
        to know this password. It has been set as PRE-EXPIRED. If this
        scenerio violates your security policies, you may change it after
        the installation has finished via the VMS AUTHORIZE utility.

* UIC to be used for MUAS$SERVER account in format [ggg,mmm]: [600,600]

        To ensure that the MailWorks/Japanese server runs
        in the proper environment,  this installation
        procedure will create  an account for  the server.
        This account,  MUASNET,  has the privileges TMPMBX
        and NETMBX.   Only network logins are allowed into
        the MUASNET account.

        You must specify a unique user number for this
        account in  order to  ensure proper security  of
        the  network.   The password for this
        account will be generated. You do not need to know
        this  password.   If this  scenerio violates  your
        security  policies,  you may  change it  after the
        installation  has finished  via the  VMS AUTHORIZE
        utility.

* User number to be used for MUASNET account in format, mmm: 601
* Message Router mailbox name [AM_AMENBO]:
* Node where Remote Message Router is located : TANISI
```

```
        The password must match the  one that is set in the X4MANAGER
        utility.  The password must  be between 8  and  31 characters
        long.  If  the  user  wants  to  check  the  mailbox  using:
        MRMAN SEND/IDENT,  then the combined length  of  the mailbox
        and password should be between 8 and 24 characters long.

* Remote Message Router Password : RemoteMessRoutrPW
* Local routing address [AM_AMENBO@TANISI]:
* Time offset: +0000

        There will now be a dialogue to determine the MUAS system
        configuration.  You will be asked to specify the MUAS servers
        to be run on this node (and, for a cluster, other nodes).

        Servers are uniquely identified by a three-character name,
        typically composed only of numeric characters.

        You will be asked after each set if there are more servers
        to be configured.

        Use ^Z (CTRL-Z) to cancel an entry for a server node or
        server disk set.

* Node for server 000 [AMENBO]:
* Disk for server 000 [SYS$SYSDEVICE]:

        MailWorks/Japanese system configuration is now complete.

        Note that if you want to alter the system configuration after
        installation, use the X4MANAGER utility as described in
        the MailWorks/Japanese System Manager's Guide.

Checking license for command line interface

        Product:      ALLIN1-MAIL-VT-CLIENT
        Producer:     DEC
        Version:      1.1
        Release Date: 19-Apr-1991

* Does this product have an authorization key registered and loaded? YES

  This is the end of the questions that are asked by this installation.
  The rest of the installation will take about 13 minutes
  on a DEC 3000 Model 300 class machine.
```

```
%VMSINSTAL-I-RESTORE, Restoring product save set C ...
%VMSINSTAL-I-RESTORE, Restoring product save set D ...
%VMSINSTAL-I-RESTORE, Restoring product save set F ...
%VMSINSTAL-I-ACCOUNT, This installation creates an ACCOUNT named MUAS$SERVER.
%UAF-I-ADDMSG, user record successfully added
%UAF-I-RDBADDMSGU, identifier MUAS$SERVER value [000600,000600] added to right
s database
%VMSINSTAL-I-ACCOUNT, This installation updates an ACCOUNT named MUAS$SERVER.
%UAF-I-MDFYMSG, user record(s) updated
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[MUAS$SERVER].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[MUAS$SERVER.COM].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[MUAS$SERVER.DB].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[MUAS$SERVER.TOOLS].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[MUAS$SERVER.WRK].
%VMSINSTAL-I-ACCOUNT, This installation adds an identifier named MUAS$PROFILE_
UPDATE.
%UAF-I-RDBADDMSG, identifier MUAS$PROFILE_UPDATE value %X8001000D added to rig
hts database
%VMSINSTAL-I-ACCOUNT, This installation creates an ACCOUNT named MUASNET.
%UAF-I-ADDMSG, user record successfully added
%VMSINSTAL-I-ACCOUNT, This installation updates an ACCOUNT named MUASNET.
%UAF-I-MDFYMSG, user record(s) updated
%VMSINSTAL-I-ACCOUNT, This installation updates an ACCOUNT named MUASNET.
%UAF-I-MDFYMSG, user record(s) updated
%VMSINSTAL-I-ACCOUNT, This installation updates an ACCOUNT named MUASNET.
%UAF-I-MDFYMSG, user record(s) updated
%VMSINSTAL-I-ACCOUNT, This installation updates an ACCOUNT named MUASNET.
%UAF-I-MDFYMSG, user record(s) updated
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[MUAS$SERVER_000].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[MUAS$SERVER_000.DMP].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[MUAS$SERVER_000.MSG].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[MUAS$SERVER_000.TMP].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[MUAS$SERVER_000.WRK].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.TEST].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.PRINT].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.DL].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.ENGLISH].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
```

```
:[A1MAIL$LIBRARY.JAPANESE].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.DANISH].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.DUTCH].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.FRENCH].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.GERMAN].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.ITALIAN].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.SPANISH].
%VMSINSTAL-I-SYSDIR, This product creates system disk directory  SYS$SYSDEVICE
:[A1MAIL$LIBRARY.SWEDISH].

      +-----------------------------------------+
      | Create the mailbox on the node running MR. |
      +-----------------------------------------+

      +-------------------------------------------------------------------+
      | When the installation completes, remember to modify your system   |
      | startup procedure to execute SYS$STARTUP:A1MAIL$STARTUP.COM,      |
      | AFTER the network has been started up.                            |
      |                                                                   |
      | Note that if you are installing on a cluster, this startup procedure |
      | should, in general, be executed on EVERY node in the cluster.  Read |
      | the release notes for more information.                           |
      +-------------------------------------------------------------------+

Starting DEC MAILworks/Japanese for OpenVMS

V1.3-AJ

V1.3-AJ

Job MUAS$NODE_CHECK (queue MUAS$BATCH_AMENBO, entry 380) started on MUAS$BATCH
_AMENBO
%RUN-S-PROC_ID, identification of created process is 00000A04
Preparing to start MailWorks/Japanese IVP

V1.3-AJ


V1.3-AJ


Local user distribution list needs to be updated.

V1.3-AJ

Starting IVP for DEC MAILworks/Japanese V1.3-AJ.

Starting server test.

Starting user agent test; VT interface.

NOTE: This IVP will change the current user's
      MailWorks user profile as follows:
```

```
      AUTO_PURGE                    is set to No
      CORRELATE                     is set to Yes

Setting profile attributes.


Mailing message to self.

Pausing 19 seconds for message delivery.

新しい DEC MAILworks メッセージが AMENBO に SYSTEM (SYSTEM@AM_AMENBO@TANISI)
から届きました。(13-JUN-1995 08:51:45.22)

新しい DEC MAILworks 配信/受信通知が AMENBO に POSTMASTER (@AMENBO.MUAS) から
届きました。(13-JUN-1995 08:51:52.12)

Generating IVP output file.

Checking IVP output file.

未開封の 日本語 DEC MAILworks メッセージが 2 通あります。


DEC MAILworks/Japanese V1.3-AJ IVP completed successfully.

        Installation of A1MAILJA T1.3 completed at 08:52

    Adding history entry in VMI$ROOT:[SYSUPD]VMSINSTAL.HISTORY

    Creating installation data file: VMI$ROOT:[SYSUPD]A1MAILJA013.VMI_DATA

        VMSINSTAL procedure done at 08:52

$
```

B

システムにインストールされるファイル，論理名およびプロセス

日本語 MailWorks インストレーション・プロシージャは，多くのファイルをシステムにインストールします。また，このプロシージャはいくつかの論理名を定義し，また，特定のプロセスを起動します。本付録では，インストールされるファイルを一覧表示し，論理名を示し，起動時に使用される論理名を示し，さらに，インストレーション時に起動されるプロセスを一覧表示します。

B.1 ファイル名

日本語 MailWorks をインストールした時に，必ずインストールされるファイルを表 B–1 に一覧表示します。

表 B–1 インストールされるファイル

ディレクトリ	ファイル名
共通ファイル	
SYS$HELP	A1MAIL013_iso_code.RELEASE_NOTES
SYS$TEST	A1MAIL$VMS_IVP.COM
SYS$MESSAGE	A1MAIL$MESSAGES.EXE
SYS$MESSAGE	A1MAIL$SSI_MESSAGES.EXE
SYS$MESSAGE	A1MAIL$MESSAGES_EN.EXE
	A1MAIL$MESSAGES_JA.EXE
A1MAIL$LIBRARY	A1MAIL$CCT_KEYDEF.INI (ビデオ・ターミナル用)
	A1MAIL$DEFINE_LANGUAGES.COM
	A1MAIL$INSTALL_IMAGES.COM
	A1MAIL$INSTALL_CCT.COM (ビデオ・ターミナル用)
	A1MAIL$INSTALL_MAC.COM
	A1MAIL$INSTALL_MSDOS.COM
	A1MAIL$COMMON_STARTUP.TEMPLATE
	A1MAIL$CONNECT_STARTUP.TEMPLATE
	A1MAIL$SERVER_STARTUP.COM

(次ページに続く)

表 B–1 (続き) インストールされるファイル

ディレクトリ	ファイル名
共通ファイル	
	A1MAIL$LANGUAGES.DAT
	A1MAIL$LANGUAGES_DEFAULT.DAT
	A1MAIL$PURGE.COM
	A1MAIL$STARTUP.TEMPLATE
	A1MAIL$STOP_PRINT_SERVER.COM
	DMW$COLLECT_INFO.COM
	DMW$FORCE_DUMP.COM
	DMW$FORCE_DUMP.EXE
	MUAS$SERVER_SYSTEM_STARTUP.TEMPLATE
	X400MAN$CREATE_DEFAULT_PROFILE.COM
	X400MAN$CREATE_MAILBOX.COM
	X400MAN$GET_PRINT_SERVER.COM
	A1MAIL$REGISTERED_EDITORS.TXT
	A1MAIL$COMPRESS.COM
	A1MAIL$SET_CUSTOMIZE_LOGICAL.COM
	A1MAIL$SET_LOCAL_ROUTING_ADDRESS.COM
	A1MAIL$SET_SERVER_LIST.COM
	A1MAIL$SET_TIME_OFFSET.COM
	A1MAIL$SHOW_UNOPENED.EXE
	A1MAIL$SSI_MESSAGES.MSG
	X400MAN$SM_KEYDEF.INI (サーバ用)
A1MAIL$LIBRARY:[. 言語]	日本語 MailWorks インストレーション時に，システム上にすべての言語用ファイルがインストールされます。
	A1MADDR.DAT
	A1MDIST.TXT
	A1MDWRH.TXT
	A1MIOSRH.TXT
	A1MKEYWD.DAT
	A1MSHOW.TXT
	A1MAIL$PROFILE_TEMPLATE_ALL–IN–1.DAT
	A1MAIL$PROFILE_TEMPLATE_DEFAULT.DAT
	A1MAIL$PROFILE_TEMPLATE_VMSMAIL.DAT

(次ページに続く)

表 B–1 (続き) インストールされるファイル

ディレクトリ	ファイル名
日本語 MailWorks for OpenVMS ビデオ・ターミナル・ファイル	
SYS$SYSTEM	A1MAIL$CCT_MAIL.EXE
SYS$HELP	A1MAIL$CCT_HELP.HLB
A1MAIL$LIBRARY:[.ENGLISH]	A1MAIL$CCT_HELP.HLB
A1MAIL$LIBRARY:[.JAPANESE]	A1MAIL$CCT_HELP.HLB
日本語 MailWorks サーバの基本構成要素	
SYS$STARTUP	A1MAIL$STARTUP.COM
	A1MAIL$CONNECT_STARTUP.COM
	MUAS$STARTUP.COM
SYS$SYSTEM	A1MAIL$PRINT_SERVER.EXE
	A1MAIL$CONNECT.EXE
	A1MAIL$DIRECTORY.COM
	A1MAIL$CTI_BROKER.EXE
	A1MAIL$DDS_SERVER.EXE
	MUAS$SVRCHK_MAIN.EXE
	MUAS$SERVER.EXE
	MUAS$SERVER_LOGIN.COM
	MUAS$SUBPROC.EXE
	TLNK$REMOTE.EXE
	X400MAN.EXE
SYS$SHARE	A1MAIL$SHARE.EXE
	DSL$SHR.EXE
	A1MAILDOSSHR.EXE
	A1MAILMACSHR.EXE
	CTISHR$DECNET.EXE
	CTISHR$TCPIP.EXE
	CTISHR$DSL.EXE—VAX システムのみ
	MUAS$SHARE.EXE
	MUAS$CLIENT_SHARE.EXE
	MUAS$SERVER_SHARE.EXE
	MUAS$MRIF_SHR.EXE
	MUAS$SM_SHARE.EXE
	MUAS$TRANSLATOR_SHARE.EXE
	MUAS$TABLE_SHARE.EXE
	X400$SSI_SHARE.EXE
SYS$MESSAGE	A1MAIL$MESSAGES.EXE

(次ページに続く)

表 B–1 (続き) インストールされるファイル

ディレクトリ	ファイル名
日本語 MailWorks サーバの基本構成要素	
	A1MAIL$SSI_MESSAGES.EXE
	A1MAIL$MESSAGE_EN.EXE
	A1MAIL$CONV_MSG.DAT
	MUAS$CLIENT_MSG.EXE
	MUAS$SERVER_MSG.EXE
A1MAIL$LIBRARY	A1MAIL$PRINT_PS_HDR.EPS
	A1MMACTT.TXT
	A1MDIST.TXT
	A1MAIL$INSTALL_MSDOS.COM
	A1MAIL$INSTALL_MAC.COM
	X400MAN$CREATE_ALL–IN–1_PROFILE.COM
	X400MAN$CREATE_VMSMAIL_PROFILE.COM
	X400MAN$CREATE_BATCH_QUEUE.COM
	X400MAN$GET_LIST_OF_TEMP_SERVERS.COM
	X400MAN$RELEASE_NODE_CHECK.COM
	X400MAN$REM_SRV_SHUTDOWN.COM
	X400MAN$REM_SRV_STARTUP.COM
	X400MAN$GET_REMOTE_SERVER.COM
[MUAS$SERVER.COM]	A1MAIL$COMMON_STARTUP.COM
	MUAS$CREATE_DIRECTORY.COM
	MUAS$CREATE_SEMANTIC_TABLES.COM
	MUAS$SET_SYMBOLS.COM
	MUAS$UPDATE_QUOTA.COM
	MUAS$DELETE_DIRECTORY.COM
	MUAS$KEYPAK_CONVERT.COM
	MUAS$NODE_CHECK.COM
	MUAS$SERVER_INPUT.COM
	MUAS$SERVER_SYSTEM_STARTUP.COM
	MUAS$TABLE_SHARE.COM
	MUAS$TIDY.COM
[MUAS$SERVER.DB]	COUNTER_FILENAME_nnn.DAT
	MUAS$SERVER_SYSTEM_STARTUP.COM
	MUAS$PROFILE.DAT
	MUAS$PROFILE.FDL
	MUAS$SYSTEM_CONFIG.DAT
	MUAS$SYSTEM_CONFIG.FDL

(次ページに続く)

表 B–1 (続き) インストールされるファイル

ディレクトリ	ファイル名
日本語 MailWorks サーバの基本構成要素	
	MUAS$SUBSTITUTE_BODY.DDIF
	MUAS$SUBSTITUTE_BODY.TEXT
	MUAS$TABLE_SHARE.MAR
	DMW$SYSTEM_CONFIG.DAT
	DMW$SYSTEM_CONFIG.FDL
	MUAS$WPLDEF.FDL
[MUAS$SERVER.TOOLS]	MUAS$CLIENT_MSG.OBJ
	DDS$MSG_ALPHA.EXE
	DDS$MSG_VAX.EXE
	DDS$RMT_ALPHA.EXE
	DDS$RMT_VAX.EXE
	MRAPPMSG.EXE
	MRAPPSHAR.EXE
	MRAXPMSG.EXE
	MRAXPSHAR.EXE
	MUAS$EVL_DEFINITIONS.H
	MUAS$SERVER_EXEID_CUSTOMER.OPT
	MUAS$MDL_MAIN.EXE
	MUAS$SERVER_MSG.OBJ
	MUAS$TABLE_SHARE.OPT
	MUAS$TBL_ACCESS.OBJ
日本語 MailWorks for OpenVMS DECwindows ファイル	
SYS$SYSTEM	A1MAIL$DW_MAIL.EXE
SYS$LIBRARY	A1MAIL$DW_MAILSHR.EXE
	A1MAIL$DW_DEFAULTS.DAT
	A1MAIL$DW_DATETIME.UID
	A1MAIL$DW_MAIN.UID
	A1MAIL$DW_MISC.UID
	A1MAIL$DW_PAB.UID
	A1MAIL$DW_READ.UID
	A1MAIL$DW_SEND.UID
	A1MAIL$DW_WASTE.UID

(次ページに続く)

表 B–1 (続き) インストールされるファイル

ディレクトリ	ファイル名
日本語 MailWorks for OpenVMS DECwindows ファイル	
	DWFC$FSW.UID
SYS$TEST	A1MAIL$DWVMS_IVP.COM
SYS$HELP	A1MAIL$DW_HELP.HLB
A1MAIL$LIBRARY	A1MAIL$INSTALL_DW.COM
A1MAIL$LIBRARY:[.ENGLISH]	A1MAIL$DW_DEFAULTS.DAT
	A1MAIL$DW_DATETIME.UID
	A1MAIL$DW_MAIN.UID
	A1MAIL$DW_MISC.UID
	A1MAIL$DW_PAB.UID
	A1MAIL$DW_READ.UID
	A1MAIL$DW_SEND.UID
	A1MAIL$DW_WASTE.UID
	DWFC$FSW.UID
	A1MAIL$DW_HELP.HLB
A1MAIL$LIBRARY:[.JAPANESE]	A1MAIL$DW_DEFAULTS.DAT
	A1MAIL$DW_DATETIME.UID
	A1MAIL$DW_MAIN.UID
	A1MAIL$DW_MISC.UID
	A1MAIL$DW_PAB.UID
	A1MAIL$DW_READ.UID
	A1MAIL$DW_SEND.UID
	A1MAIL$DW_WASTE.UID
	DWFC$FSW.UID
	A1MAIL$DW_HELP.HLB

B.2 論理名

表 B–2 に示した論理名は，日本語 MailWorks がインストールされた時にシステム論理名テーブルに登録されます。これらの論理名は，本製品のスタートアップ・ファイルに保管されます。システムがリブートしたり，また，本ソフトウエアが呼び出される時に，これらの論理名は自動的にシステム論理名テーブルの中に登録されます。

表 B–2 システム・ワイドな論理名

論理名	意味	説明
A1MAIL$BROADCAST	変数	新規メールの通知をサポートする (OpenVMS 以外の) クライアントのリスト。
A1MAIL$BROADCAST_STATE	変数	新規メールの通知の際の問題の解決に使用されます。
A1MAIL$CONNECT_TRANSPORT	変数	サポートしているトランスポート・タイプのリスト。
A1MAIL$DEFAULT_LANGUAGE	日本語	複数言語のインストレーション時に，システムの省略時言語として使用されます。
A1MAIL$DDS_AVAILABLE	変数	
A1MAIL$DDS_MIN_SURNAME	変数	DDS の検索を行う時，surname フィールドの中に入力しなければならない最小文字数。
A1MAIL$DISTRIBUTION_LISTS	(disk_entered):[A1MAIL$LIBRARY.DL]	配布リストのサブディレクトリを示します。
A1MAIL$INTERNAL_TRACE	定義しない	デバッグの補助用に使用されます。
A1MAIL$LANGUAGE_xx	変数	エラー・メッセージを処理するための，複数言語のインストレーションに使用されます。
A1MAIL$LIBRARY	(disk_entered):[A1MAIL$LIBRARY]	共通のユーティリティとデータ管理のライブラリ。
A1MAIL$LIBRARY_ROOT	(disk_entered):[A1MAIL$LIBRARY.]	A1MAIL$LIBRARY のサブディレクトリをアクセスするために使用される，ルートの論理名。
A1MAIL$LOCAL_ROUTING_ADDRESS	ローカル・ルーティング・アドレス	ローカル・アドレスおよび発行者フィールドの完了値として，アドレスの検証中に使用されます。
A1MAIL$PRINT_SERVER_MBX	変数	
A1MAIL$SERVER_LIST	使用可能な MUAS$SERVERs を実行しているノードのリスト	メールを送信するため，また，プロファイルをアップグレードするために接続時に使用されます。
A1MAIL$TEST	(disk_entered):[A1MAIL$LIBRARY.TEST]	

(次ページに続く)

表 B–2 (続き) システム・ワイドな論理名

論理名	意味	説明
		IVP 実行中に，また，A1MAIL$INTERNAL_TRACE 設定時にも使用されます。接続サーバのログが保管されているディレクトリです。
A1MAIL$TIME_OFFSET	変数	ネットワーク標準時からのローカル・オフセット。
A1MAIL$CONNECT_INTERNAL_TRACE	変数	デバッグの補助用として使用されます。
A1MAIL$CONNECT_PROCESS_DUMP	変数	デバッグの補助用として使用されます。
A1MAIL$CONNECT_ERROR_DUMP	変数	デバッグの補助用として使用されます。
MUAS$_ERROR_DUMP	変数	デバッグの補助用として使用されます。
MUAS$TOOLS	(disk_entered):[MUAS$SERVER.TOOLS]	
		共通のユーティリティを保管するために，MUAS サーバによって使用されます。
MUAS$CMDS	(disk_entered):[MUAS$SERVER.CMDS]	
MUAS$COMMON	(disk_entered):[MUAS$SERVER]	
		MUAS サーバによって使用される，プロファイルと設定が保管されている最上位のディレクトリ。
MUAS$DB	(disk_entered):[MUAS$SERVER.DB]	
MUAS$DEFAULT_SERVER		
MUAS$EXAMPLE		
MUAS$NOTIF_FETCH_MBX		
MUAS$SERVER_OBJECT	84	ネットワーク操作に使用される DECnet オブジェクト ID です。
MUAS$SUBSTITUTE_BODY_DDIF		
MUAS$SUBSTITUTE_BODY_TEXT		
MUAS$WPLDEF		

表 B–3 には，スタートアップ時に使用されるコマンド・ファイルが載っています。

表 B–3 スタートアップ時に使用されるコマンド・ファイル

ディレクトリ	コマンド・ファイル	説明
A1MAIL$LIBRARY:	A1MAIL$SET_SERVER_LIST	論理名 A1MAIL$SERVER_LIST を定義します。
	A1MAIL$DEFINE_LANGUAGES	論理名 A1MAIL$DEFINE_LANGUAGES を定義します。
	A1MAIL$SET_LOCAL_ROUTING_ADDRESS	論理名 A1MAIL$LOCAL_ROUTING_ADDRESS を定義します。
	A1MAIL$SET_CUSTOMIZE_LOGICAL	論理名 A1MAIL$SET_CUSTOMIZE_LOGICAL を定義します。
	A1MAIL$SET_TIME_OFFSET	論理名 A1MAIL$SET_TIME_OFFSET を定義します。
	A1MAIL$INSTALL_IMAGES	日本語 MailWorks for OpenVMS を実行するのに必要なすべてのイメージをインストールします。
[MUAS$SERVER.COM]	A1MAIL$COMMON_STARTUP.COM	MUAS$SERVER を起動するための入力として使用されます。
	MUAS$CREATE_SEMANTIC_TABLE	論理名 MUAS$CREATE_SEMANTIC_TABLE を定義します。
	MUAS$NODE_CHECK	論理名 MUAS$NODE_CHECK を定義します。
X4MANAGER によって使用		
A1MAIL$LIBRARY	X400MAN$CREATE_ALL–IN–1_PROFILE.COM	ALL–IN–1, IOS モードに対するプロファイルのテンプレートを作成するのに使用されます。
	X400MAN$CREATE_VMSMAIL_PROFILE.COM	OpenVMS メール・モードに対するプロファイルのテンプレートを作成するのに使用されます。
	X400MAN$CREATE_BATCH_QUEUE.COM	X4MANAGER によって使用されます。

(次ページに続く)

表 B–3 (続き) スタートアップ時に使用されるコマンド・ファイル

ディレクトリ	コマンド・ファイル	説明
X4MANAGER によって使用		
	X400MAN$GET_LIST_OF_TEMP_SERVERS.COM	X4MANAGER によって使用されます。
	X400MAN$RELEASE_NODE_CHECK.COM	X4MANAGER によって使用されます。
	X400MAN$REM_SRV_SHUTDOWN.COM	X4MANAGER によって使用されます。
	X400MAN$REM_SRV_STARTUP.COM	X4MANAGER によって使用されます。
	X400MAN$GET_REMOTE_SERVER.COM	X4MANAGER によって使用されます。

表 B–4 に，インストレーション中に起動されるプロセスを示します。

表 B–4 インストレーション中に起動されるプロセス

プロセス	説明
A1MAIL$PRINT	PC が日本語 MailWorks サーバからフォーマットおよび印刷できるようにします。
A1MAIL$CONNECT	PC に対して， OpenVMS 上のサービスへの接続を提供します。
MUAS$SERVER_nnn	日本語 MailWorks サーバを提供します。
A1MAIL$DIRECT_nnn	複数の同時 DDS 検索を提供します。

日本語 MailWorks for OpenVMS インストレーション・ガイド

1995 年 7 月　発行

日本ディジタル イクイップメント株式会社

〒 167 東京都杉並区上荻 1-2-1

電話　(03)5349-7111 (大代表)

AA–PM6WC–TE